

「ひとりひとりが行動するエ」



第6回

スリーアール
3

R推進全国大会【報告書】

in Kyoto

京の3Rは

みんなの協力入ル

ごみの量下ル

クリーンの量上ル



スリーアール

3Rとは

リデュース

Reduce ごみをできるだけ出さない

リユース

Reuse 使えるものは繰り返し使う

リサイクル

Recycle 再び資源として利用する

これらの頭文字をとった、循環型社会を構築していくためのキーワードです。

会期

平成23年10月28日金▶30日日

会場

京都市勧業館
みやこめっせ 1階 第2展示場

主催: 第6回3R推進全国大会実行委員会

京都市 / 環境省 / 環境省近畿地方環境事務所 / 3R活動推進フォーラム / 京都商工会議所 / 社団法人京都府産業廃棄物協会 / 京都環境事業協同組合 / 日本チェーンストア協会 / 京都市地域女性連合会 / 京都市ごみ減量推進会議 / 第9回京都学生祭典実行委員会





第6回

3R推進全国大会 in Kyoto

Contents

1.大会概要

大会報告	2
テーマおよび開催概要	3
後援	3

2.大会式典

大会式典プログラム	4
開会挨拶	
横光 克彦(環境副大臣)	5
細見 吉郎(京都市副市長)	6
武内 和彦(3R活動推進フォーラム会長)	7
来賓挨拶	
井上 与一郎(京都市会議長)	8
循環型社会形成推進功労者等大臣表彰	9
特別講演 3Rの意義、東日本大震災への対応、復興支援	
酒井 伸一	
(一般社団法人廃棄物資源循環学会 会長 / 京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長)	11
記念講演 家庭でできる『うちエコ』	
堀 ちえみ(タレント)	20
大会宣言	
^{きん りん} 京都市立錦林小学校	27

3.京都市環境展

オープニングセレモニー	28
京都市環境展レイアウト	29
展示風景	30
ステージイベント	35
メインステージ	36
ミニステージ	39
エコ体験コーナー	43
かえっこバザール	44

4.関連イベント

環境省中央環境審議会	
循環型社会計画部会地域ブロックヒアリング	45
第12回 環境フォーラムきょうと	46

5.資料

チラシ(A4両面印刷)	47
式典プログラム(A3二つ折り、両面印刷)	47
ポスター(B3片面印刷)	48
広報ツール(エコ箸)	48
第6回3R推進全国大会リーフレット(A4三つ折り、両面印刷)	49
ホームページ	50
第6回3R推進全国大会実行委員会設置要綱	51
第6回3R推進全国大会幹事会設置要綱	52
第6回3R推進全国大会の開催に関する取組	53

1.大会概要

大会報告

第6回3R推進全国大会実行委員会

委員長 **坪内 俊明**(京都市環境政策局長)



はじめに、平成23年3月11日の東日本大震災で亡くなられた皆様のご冥福を心からお祈りするとともに、被災された皆様が一丸となって苦難を乗り越えられていることに深く敬意を表します。

京都市では、「環境にいいことしていますか?」を意味する「DO YOU KYOTO?」を合言葉に、「京都議定書誕生の地」、「環境モデル都市・京都」として、持続的に発展可能な社会を実現しようと、平成22年3月に新しい循環型社会推進基本計画である「みんなで目指そう!ごみ半減!循環のまち・京都プラン」を策定しました。このプランでは平成32年度のごみ量をピーク時である平成12年度の半分以下にすることを目標としており、この高い目標を達成するために、市民・事業者の皆様と一体となった取組を日々行っております。

この度、3R推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成を目的とした「第6回3R推進全国大会」を、平成23年10月28日(金)～30日(日)にかけて京都市で開催いたしました。大会開催にあたっては、更なる3R推進に寄与することを目指し、特に震災を契機としたライフスタイル転換の機運の高まりを受け、大会の参加者に自らのライフスタイルを見直す機会が提供できるよう、実行委員会での議論を重ねてまいりました。

大会式典では、3R推進に多大な貢献をされている循環型社会形成推進功労者等表彰及び3R促進ポスターコンクール表彰の受賞者の皆様に、横光克彦環境副大臣から表彰状が授与されました。また、特別講演として一般社団法人廃棄物資源循環学会会長の酒井伸一氏(京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長)より知見に満ちたお話をいただくとともに、記念講演とし

てタレントの堀ちえみさんから家庭で気軽にできるエコの取組についてご紹介いただきました。さらに、大会式典後、全国大会に合わせて環境省より「中央環境審議会地域ブロックヒアリング」を開催いただき、3Rへの理解の促進に大いに協力いただきました。

京都市環境展では、様々な市民団体や企業の皆様から30のブースに出展をいただき、来場者に対し3Rを推進するための創意工夫に溢れた取組や技術をご紹介いただきました。また、「ひとりひとりが行動するエコ」をコンセプトに、より多くの方に会場に足を運んでいただけるよう、各種ステージイベントの実施、エコ体験コーナーでのワークショップの開催などを通じて、3R推進につながる体験をしていただきました。このほか、東日本大震災の被災地の状況や京都市が実施した支援活動に関する写真展示を行い、あらためて震災支援の必要性を訴えました。

こうした京都のまちが持つ「市民力」や「地域力」を総結集した様々な企画の実施により、市内外から約12,000人もの方々にご来場いただけたことから、本大会の開催が広く3R推進の理解を深める一助となったのではないかと考えております。

第6回3R推進全国大会は、多くの皆様のご尽力により、無事終了することができました。ご来場いただきました皆様をはじめ、大会成功のためにご尽力いただいた実行委員会各団体の皆様、京都市環境展にご出展いただいた出展者の皆様、その他、大会にご協力いただいたすべての皆様に厚くお礼申し上げます。

最後に、今後の3R活動の更なる発展を心より祈念いたしまして、開催報告とさせていただきます。

1.大会概要

1 大会概要

テーマおよび開催概要

国民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会の形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、東日本大震災を契機にライフスタイル転換の機運が高まっていることを受け、参加者一人ひとりが自らのライフスタイルを見直す機会を提供することを通じ、ごみの減量・再資源化などの3R推進に関する理解を深め、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組を推進する。

■ コンセプト ひとりひとりが行動するエコ

■ 開催日時 平成23年10月28日(金)～30日(日) 10:00～17:00

■ 会 場 京都市勧業館みやこめっせ
1階 第2展示場
京都市左京区岡崎成勝寺町9番地1



■ 内 容 大会式典・京都市環境展

■ 来場者数 約12,000人

■ 後 援 京都府、京都市教育委員会、朝日新聞京都総局、京都新聞社、
産経新聞社京都総局、日本経済新聞社京都支社、
毎日新聞社京都支局、読売新聞社京都総局、
共同通信社京都支局、時事通信社京都総局、
NHK京都放送局、KBS京都、エフエム京都

2.大会式典

大会式典プログラム

■ 日 時 平成23年10月28日(金)式典 / 10:00 ~ 12:30

■ 会 場 京都市勧業館みやこめっせ 1階 第2展示場

■ 来場者数 約450人

■ 開会挨拶 環境副大臣 横光 克彦
京都市副市長 細見 吉郎
3R活動推進フォーラム会長 武内 和彦

■ 来賓挨拶 京都市会議長 井上 与一郎

■ 表 彰 式 循環型社会形成推進功労者等表彰
3R 促 進 ポスターコンクール 表 彰

■ 特別講演 酒井 伸一 [一般社団法人廃棄物資源循環学会 会長
京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長]
「3Rの意義、東日本大震災への対応、復興支援」

■ 記念講演 堀 ちえみ [タレント]
「家庭でできる『うちエコ』」

■ 大会宣言 京都市立錦林^{きん りん}小学校児童

■ 閉 会



開会挨拶

横光 克彦 (環境副大臣)



皆様、おはようございます。ただいまご紹介をいただきました、環境副大臣の横光克彦でございます。今日は、第6回3R推進全国大会が、ここ京都市で、市民の皆さんのみならず、全国から多くの皆様方がご参加の下、盛大に開催されますことを心からお喜びを申し上げます。

また、本日、循環型社会形成推進功労者表彰を受けられる皆様、そして、3R促進ポスターコンクールで選ばれた小中学生の皆様、心からお祝いを申し上げたいと思います。

本年の開催地であります、ここ京都市は、あの「京都議定書」が誕生した地でございます。温暖化対策や3Rなどの環境対策に、「DO YOU KYOTO?」という合言葉の下、市民の皆様方が一体となって積極的に取り組んでおられる、まさに環境先進都市であり、私も大変楽しみにしてまいりました。

まず、先の甚大な被害に見舞われました東日本大震災で被災された方、お亡くなりになられた方に対して、あらためて心からお見舞いとお悔やみを申し上げたいと思います。

私たちは、この国難を乗り越えて被災地の復興、そして日本の再生を果たしていかなければなりません。環境省では、大震災で発生いたしました膨大な災害廃棄物の処理、そして放射性物質による環境汚染などに全力で取り組んでま

いったところであります。被災地のご支援に対しまして、この場をお借りいたしまして、心からお礼を申し上げたいと思います。

さて、本大会のテーマでございます3Rへの取組でございますが、大量生産、大量消費、そして大量廃棄の社会から、循環型の社会、さらには低炭素で自然と共生した持続可能な社会をつくる上で大変重要でございます。

皆様方は平素から取り組んでおられますが、環境省でも使用済みの小型の電気電子機器に関する新たな制度を、いま検討いたしております。また、静脈産業の海外展開の支援などに取り組んでおるところであります。

この3R推進全国大会が、ご参加される皆様方にとりまして、本当に3Rに関する知識や経験や、あるいは、この取組を学ぶ中で、お互いに交流をし、自ら一人一人がライフスタイルやビジネススタイルを見直して、更なる3R推進に向けた取組が広がっていきますことを、そういった機会となりますことを、大変私も期待をいたしております。

最後に、この開催にご尽力をいただきました京都市および関係団体の皆様方、さらには3R活動推進フォーラムの関係者の皆様に心からお礼を申し上げまして、私からのごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

開会挨拶

細見 吉郎(京都市副市長)



京都市副市長の細見でございます。本日は第6回3R推進全国大会を京都で開催していただきまして、心より歓迎申し上げます。本来ならば門川京都市長が皆様にごあいさつをすべきところではありますが、公務に重なりましたので、お許しいただきまして、私が市長あいさつを代読させていただきます。

本日、第6回3R推進全国大会が、井上与一郎京都市会議長のご列席の下、大勢の皆様のご参加により盛大に開催できますことを誠にうれしく存じます。また、主催者の横光克彦環境副大臣、ならびに武内和彦3R活動推進フォーラム会長をはじめ、本大会の開催にご尽力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

こんにち、私たちの社会は様々な課題に直面いたしておりますが、中でも環境問題は地球規模の大きな課題でございます。この課題に対応するため、本市は「京都議定書」誕生の地として、また環境モデル都市として、市民の皆様の志と行動を共有しながら、様々な取組を率先して進めているところでございます。

そうした京都の環境への志や行動は、近年に始まったものではございません。京都には、歴史と伝統のまちとして古くから物を大切に伝える文化があり、また物の命を尊び徹底的に使い切る始末の心が息づき、物の豊かさよりも心の豊かさを重視する美学や暮らしの知恵が育まれてまいりました。

京都では、それらを基盤に千年を超えるまちづくりが行われてきたのであります。もし使い捨ての文化であったならば、千年以上続く持続可能な都市にはならなかったのでございましょう。その京都で、このたび3R推進全国大会が開催されますことを、主催者の一人として誠に喜ばしく思っております。

さて、今年3月に発生した東日本大震災は、被災地における多大の犠牲と未曾有の被害をはじめ、わが国全体に大きな試練を与えました。いまこそ日本中が知恵と力を結集して、この困難を乗り越えなければなりません。同時に、今回の大震災の経験を踏まえて、あらためて今後千年以上続く、持続可能な日本の社会を築いていかなければなりません。

そのためには大震災を経験した本年を、環境問題や社会の在り方、エネルギー政策、生き方や暮

らしを見つめ直し、課題や進むべき新たな方向性について気付き、変革に挑む、気付きの元年、変革の元年にしなければならないと私は思っております。

まさに、そうした気付きと変革につながる身近な重要な取組が3Rの推進でございます。一人一人の、あるいは各家庭での3Rの更なる推進が、日本、さらには地球の未来に関わると言っても過言ではないでしょう。今日から本大会の三日間が、持続可能な社会につながるよう、共に楽しみながら、学び、気付き、実践してまいりましょう。

本市では、これまでから家庭ごみの有料化や、事業ごみの透明袋化、さらにはプラスチック製容器包装などの、様々な資源物の分別収集や拠点回収に取り組んでまいりました。また、京都市地域女性連合会や市民、事業者、行政のパートナーシップに基づいて設立された京都市ごみ減量推進会議などにより、市民の皆様の優れた人間力、地域力が大いに発揮された、全国でも例を見ない自主的な取組を進めております。

こうした取組により、ごみ量は平成12年度の82万トンから約4割減少し、22年度には49万7000トンとなり、ピーク時以来初めて50万トンを切ることでできました。このようにごみが大幅に減ったことから、来年度から一つのクリーンセンターの稼働を停止し、3工場体制となります。これも市民の皆様と共に3Rを強力に推進してきた結果と自負いたしております。

昨年3月に策定した「京都市循環型社会推進基本計画(愛称:ごみ半減プラン)」では、さらに3Rを推進し、平成32年度には、ごみ量をピーク時の半減となる39万トンとすることを目標といたしております。ぜひ、この大会を通じて3Rの精神をより多くの皆様と共有し、この大会の高い目標の達成に向け、取り組んでまいり所存でございます。

最後になりますが、今日のこの大会開催にご尽力いただきました、環境省、3R活動推進フォーラムをはじめとする関係者の皆様に、あらためまして深く感謝申し上げます。開催市を代表し、ごあいさつとさせていただきます。平成23年10月28日京都市長、門川大作。

本日はどうもありがとうございました。

開会挨拶

武内 和彦 (3R活動推進フォーラム会長)



3R活動推進フォーラム会長の武内和彦でございます。本日は、第6回3R推進全国大会の式典の開催にあたり、京都市をはじめ全国各地からたくさんの方々にご参加いただきましたことを、主催者の一人として心から御礼を申し上げたいと思います。

また本日、循環型社会推進功労者等環境大臣表彰を受賞される皆様方におかれましては、このたびの受賞を心よりお喜び申し上げたいと思います。また、3R促進ポスターコンクールで最優秀賞を受賞される皆様方におかれましては、心よりお祝いを申し上げたいと思います。皆様方、今回の受賞を機に、更に3R活動を積極的に推進していかれることを心よりご期待申し上げる次第でございます。

さて、3R活動推進フォーラムは平成18年に設立された組織でございます。そのきっかけは平成16年6月に、米国シアトルで開催されましたG8サミットにおいて、当時の小泉総理が、ごみの発生抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3Rを通じた循環型社会の形成を目指す、3Rイニシアチブというものを提唱し、それが国際的に合意されたことを契機としております。

翌平成17年には、わが国は、「3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画(通称:ゴミゼロ国際化行動計画)」を発表いたしました。こうした動きを踏まえて、わが国の3Rに関する社会的取組や、循環型社会の变革のための3R活動の一層の推進のために、平成4年に「ごみ減量化推進国民会議」として発足し、その後、「ごみゼロパートナーシップ会議」というかたちでの拡充発展を経て、こんにち3R活動推進フォーラムというかたちになったものでございます。

このフォーラムでは毎年、環境省および自治体、今回は京都市に多大なご尽力をいただいておりますが、そうした政府、自治体のご協力を得て、3R推進全国大会を開催し、今日、皆さんが受賞されるような循環型社会推進功労者等環境大臣表彰、あるいは3R促進ポスターコンクールの表彰等を行っているものでございます。

また、当大会では環境展の開催を通じて、企業や団体の3R活動の成果や取組を皆さんにご覧いただきたいと思います。当フォーラム、現在、都道府県38会員、民間団体65会員、その他、市4会員となっておりますけれども、今後とも都道府県、民間団体等との連携を強化し、更に今後、3Rの活動を推進していきたいと考えておるところでございます。

先ほど来、お話がございましたように、東日本大震災を契機として、わが国は非常に大きな困難に直面しているわけでござ

います。そういう中で、「京都議定書」のお話にもございましたけれども、やはり低炭素社会へ向けての取組、循環型社会に向けての取組、さらには自然共生社会に向けての取組。こういう取組がおろそかになってはいけないということも、また頭の中に置いておかねばいけないと私は考えております。

今回の震災からの復興が、むしろそうした持続可能な社会づくりにつながっていくような方向を、私どもは見いだしていかなければいけないのではないかと考えておる次第でございます。

そういう中で、3R、循環型社会に関しましては、政府、自治体の取組、企業の取組も大変重要でございますけれども、やはり市民社会の取組、市民社会の意識の变革、行動の变革というものが、その基礎になければならないのではないかと考えております。

私は、今月の初めにアフリカのナイロビにまいりました。会議の参加のためにナイロビにいったわけですが、ちょうどノーベル平和賞を受賞されたウンガリ・マータイさんが亡くなられた直後ということで、ケニアはその悲しみに、皆さんいろいろなところで、それを弔うということをなさっておられました。

私が出席した会議におきましても、いろいろな人が発言のたびにマータイさんの功績を称え、その死を悼むということでお話をされておりました。そういう中で多く言及されたのが、マータイさんというのば「もったいない」という日本の非常に貴重なものの考え方を世界に広めたということでございました。

私もマータイさんの功績に触れながら、3Rに対する大きな貢献についてお話をさせていただいたわけでありましたが、そうしたことが今後広く、日本のみならず世界に広がっていくことが非常に重要なのではないかと思います。

先ほど、3Rについては日本がイニシアチブを取って、世界を牽引してきたということを申し上げましたけれども、そうしたことをこれまで行ってきたということを踏まえて、さらに今回の大震災後の3Rの活動の取組も併せて、私たち一人一人が、これからの活動を積極的に推進していくことが必要なのではないかと考えております。

今日は幸いなことに、この後、酒井先生が講演の中で、震災後の廃棄物の問題についてもお話をいただけたということで、そうした廃棄物の現状も皆さんにご理解いただきながら、これからの3Rの取組の参考にしていただければ大変いいのではないかと考えております。

最後になりますが、環境省、京都市をはじめ、この開催にあたってご尽力をいただいた関係の皆様方に心より御礼を申し上げまして、私のごあいさつとさせていただきます。本日は、どうもありがとうございます。

来賓挨拶

井上 与一郎 (京都市会議長)



この度の3R推進全国大会が、こうして開かれまして、本当におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。京都市会を代表いたしまして、一言ご祝辞申し上げます。

祝辞。本日、全国から、このように多くの皆様方をお迎えし、第6回3R推進全国大会式典が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

本来であれば、多くの京都市会議員が出席させていただく予定でありましたが、あいにく本日が市会開会中でありますので、私が代表して出席させていただき、一言お祝いを申し上げたいと存じます。

本大会の開催にあたり、多大なご尽力を賜りました環境省、3R活動推進フォーラムをはじめとする、実行委員会ならびに関係者の皆様方に対しまして、深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。

また、後ほど、栄えある表彰をお受けになられます皆様方におかれましては、循環型社会の形成に向けた取組に多大なご貢献をいただいております、そのご功績に対しまして、心から御礼とお祝いを申し上げます。

さて、こんにち、私たちは、地球温暖化や将来

的な資源・エネルギーの逼迫など、地球規模での環境問題に直面しております。

この美しい地球を守り、限りある資源を未来の子どもたちへ引き継いでいくためには、持続可能な循環型社会の構築に向けた取組を、社会全体で推進していく必要がございます。

このような中、本大会の開催は、ここに集われた全ての皆様方、リデュース・リユース・リサイクルの3R行動の大切さを身近に感じていただくことのできる格好の機会であり、国民全体の共通の願いである「環境に優しい地域のまちづくり」に大きく寄与するものでございます。

また、本大会を契機として、環境問題に対する社会の理解と関心が、より一層深まるとともに、地域における環境保全行動の機運が高まることを強く期待いたしております。

京都市会といたしましても、門川市長としっかりと連携を図り、京都のまちが持つ「市民力」、「地域力」を結集し、循環型社会の実現のため、なお一層の努力をしまいる所存でございます。

結びに、本日ご参集の皆様方の今後ますますのご活躍、ご健勝とご多幸を心から祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

循環型社会形成推進功労者等大臣表彰

循環型社会形成推進功労者等表彰は、先駆的または独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果をあげている企業、団体、個人の方々を環境大臣から表彰するものです。

本年は13企業、11団体、5個人が受賞されました。



3R活動優良企業

北清企業株式会社 [北海道]

処理が難しいとされる新築系の廃石膏ボードを独自の技術によりグラウンド用ライン引き粉として再利用

サントリー食品インターナショナル株式会社 サントリービジネスエキスパート株式会社 [東京都]

PETボトルの水平循環の確立に向けて、使用済みPETボトルの物理的循環利用に関する技術の飛躍的向上と、その利用拡大普及に貢献すると共に、併せて石油資源や電力消費量削減、CO₂排出量削減にも大いに貢献が期待されるものである。

株式会社横須賀軽金 [神奈川県]

生ゴミを肥料にし、その肥料を使用し農家が農作物を作り、その農作物を再び購入するという循環システムを運営することにより、ゴミの減量及び資源循環に寄与

日本電気株式会社玉川事業場 [神奈川県]

自社製品のリユース・リサイクルと社員食堂生ゴミリサイクルによる廃棄物削減

株式会社恵那興業 [長野県]

平成11年に飯田市が環境都市宣言として計画した飯田市エコタウンの設立に協力するとともに自らの廃棄物の再資源化工場を設置し、循環型社会形成の模範的な事業の展開を図っている。

株式会社イナック [長野県]

長年にわたり多品目による廃棄物の分別・リサイクル化を推進しているほか、構内緑化植樹をはじめ地域清掃活動を通じて積極的に地域住民と交流し、廃棄物の減量化、再資源化、有効利用等に対する啓蒙を図っている。

株式会社山本清掃 [京都府]

昭和24年の創業以来、60年余にわたって事業系一般廃棄物並びに産業廃棄物、資源物の分野全般において、収集・運搬事業、リサイクル等の中間処理事業を展開し、持って循環型社会の形成、廃棄物の減量その他、その適正な処理の確保に取り組んでいる。

株式会社積水化成成品天理 [奈良県]

場内発生廃棄物のゼロエミッション活動に取り組み、経年的に再資源化率99%以上を達成し、3R推進に貢献

広島ガステクノ株式会社 [広島県]

有機系廃棄物を有価物に変える連続乾留炭化処理装置の建設

大塚製薬株式会社徳島板野工場 [徳島県]

廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。県認定3Rモデル事業所として循環型社会形成推進に貢献

株式会社大石物産 [福岡県]

浄水汚泥を利用した園芸用培土を開発・販売し、廃棄物の循環利用システムの確立及び普及に貢献している。

コカ・コーラウエストロジスティクス株式会社 北九州さわやかリサイクルセンター [福岡県]

飲料メーカー自身が事業活動で発生させた使用済み空容器及び廃棄自動販売機の再資源化に取り組んでいる。

株式会社トリム [沖縄県]

廃ガラスの発泡方式再生技術を確立かつ再資源化システムを構築し、普及を図っている。

3R活動推進功労団体

津別単板協同組合 [北海道]

合板を製造する過程で発生する様々な廃棄物を、燃料化や肥料化などによりバイオマス資源として利活用した。

社会福祉法人清水旭山学園 [北海道]

地域の事業所から食品残さを回収し、養鶏飼料として自家使用することによりリサイクルシステムを形成

北加積児童クラブ [富山県]

長年にわたり資源集団回収を実施するなど、地域ぐるみでゴミの減量・リサイクル活動に積極的に取り組んでいる。

リサイクルネットワーク in 小松 [石川県]

BDF(バイオディーゼル燃料)製造をはじめとする廃棄物の減量化・リサイクル活動の先見性、独自性及び継続性(20年)を評価

岐阜県医師会協同組合 [岐阜県]

感染・非感染の医療廃棄物の減量化、3R推進、適正処理確保を通じた循環型社会形成への貢献

大垣市環境市民会議 [岐阜県]

大垣市環境基本計画に基づき、市の望ましい環境像の実現を目的に設立され、環境に関する活動を行っている。

八幡自動車処理事業協同組合 [京都府]

自動車リサイクル法施行以前から、廃自動車の処理に関する「利用券制度」を創設して環境保全に取り組んだ。

鳥取県立米子南高等学校家庭クラブ [鳥取県]

校内のごみの分別回収、小学生への環境教育、オリジナルマイバッグの配布など地域密着型の取組を実施

鳥取県立境港総合技術高等学校 [鳥取県]

生徒会、福祉科、機械科、食品科、海洋科が特色を生かし、学校全体で地域に密着した循環型社会作りに貢献

三朝温泉観光協会 [鳥取県]

町内の旅館、病院等から出る生ごみ及び廃食用油を集めて、堆肥とBDF燃料を製造し循環利用している。

グリーンコープ生活協同組合ふくおか [福岡県]

グリーンコープ生協の4R運動の推進は、循環型社会をめざして4R運動の展開を先進的に進めてきた。

3R活動推進功労個人

八重樫 重夫 [岩手県]

各家庭を訪問し分別や資源回収の徹底を促し、ごみ減量とリサイクルを定着させ、循環型社会の形成に寄与

山岡 憲一 [神奈川県]

リーダーとして技術者として環境マネジメントシステム(EMS)を機能させ、産廃発生量を大幅に削減し、その成果を社外にも普及した。

虫明 清一 [岡山県]

日本で唯一の公益法人としてユニフォームのリサイクル事業を実施する社団法人環境生活文化機構を設立し、約15年の長きにわたり理事長及び特別会員として、積極的に繊維リサイクルの普及・促進に貢献している。

森 光子 [徳島県]

長年にわたり地域の環境美化及びゴミの減量化・リサイクル推進等に意欲的に取り組んだ功績が顕著であるため。

深道 春男 [大分県]

大分県レジ袋削減検討会議会長として平成21年6月にレジ袋無料配布中止の取組を県内一斉にスタートさせた。

3R促進ポスターコンクール表彰 最優秀賞受賞作品

■ 小学生低学年の部



愛知県日進市立赤池小学校3年
守屋 花苗

■ 小学生高学年の部



栃木県真岡市立中村東小学校6年
阿嶋 優希

■ 中学生の部



茨城県牛久市立下根中学校1年
伊藤 南々

特別講演



3Rの意義、東日本大震災への対応、復興支援

一般社団法人廃棄物資源循環学会 会長
京都大学環境安全保健機構附属環境科学センター長

酒井 伸一

1980年 京都大学工学部衛生工学科卒業。その後、1995年 京都大学環境保全センター助教授、2001年 国立環境研究所廃棄物研究部長、2001年 国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター長、2005年 京都大学環境保全センター教授などを経て、2010年 京都大学環境保全センター センター長(現京都大学環境科学センター センター長)。その他、中央環境審議会など政府諮問機関や政策立案検討機関への参画多数

ただいまご紹介いただきました酒井でございます。今日は、この場で、3Rの意義と今年の東日本大震災からの復興をどう考えるかというお話をさせていただく機会を得ましたことを、まず深く御礼申し上げたいと思います。

今日は、3R推進全国大会にあたり、なぜ3Rを進めねばならないのか、あらためてその背景を少し振り返らせていただきます。そして、今年日本に与えられた災害対策や放射能汚染対策といった新しい大きな課題に対して、どう対応していくのかといった点を含めながら、30分ほどお付き合いをいただきます。

まず3Rあるいは循環型社会が求められる背景についてお話しします。3R、これは言うまでもありませんが、リデュース・リユース・リサイクルという大きな物の循環の輪をつくり上げていこうということです。そのときに、まずはその輪があまり大きすぎるとよくないということで、廃棄物等の発生を抑制するリデュースと、再使用ということでのリユースに上位の概念に与えながらリサイクルを進めましょうという方向の考え方です。ざりとて、3Rを一生懸命やっても、廃棄物は発生するわけですので、その部分に関しては、適正処理や熱回収あるいは適正処分ということを求めているという考え方になっています。それでは、なぜ3R、循環型社会形成というものが求められるようになってきたのか。大きく3点あります(図1)。

なぜ3Rや循環型社会が求められるのか？

1. ゴミ問題: 廃棄物処分地は簡単に手に入れることはできなくなりつつあること
2. 環境問題: 地域環境から地球環境まで、大気環境や水環境の受容限界のあることが分かってきたこと
3. 資源問題: 21世紀のアジア地域をはじめとする経済成長で、資源逼迫が起こりつつあること

図1

一つは、言うまでもなくゴミ問題です。ゴミを最終的に処分する処分地は、簡単に手に入れることはできなくなっているということ。どの地域においても、最終処分地の確保は、永遠の課題にならざるを得ないでしょう。そういう意味では、ゴミ問題というのは3R、循環型社会形成の背景として非常に重要なポイントです。

二つ目は、環境問題。これは地域環境から地球環境まで、大気・水・土壌に関して、受け入れる方の限界があるということが分かってきました。その一つの問題が気候変動問題であり、その対応として低炭素社会を求めているという流れにあります。

それから、三つ目として、21世紀に入って明らかになりつつある資源の問題。特にアジア地域の経済成長の結果、資源逼迫がどうも起こりつつあるのだということです。こういったことから、いまの「ゴミ」のまま扱わずに、これを「資源」として考えていこうという流れです。

それぞれ少しずつ、背景をご説明します。一つ目、まず1990年代に起こった産業廃棄物の不法投棄に象徴的な事件があります。その相当前の1980年前後から、小豆島の隣の小さな豊島というところで、産業廃棄物の不法投棄問題が起こりました(図2)。



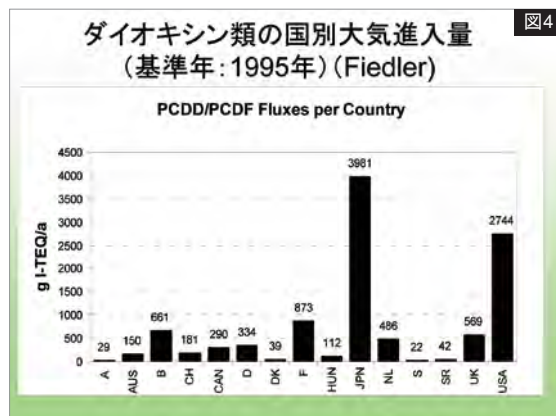
なんと、その総量は50万トン、主には車を再生した後のシュレッダーダスト等が不法投棄されたということです。この修復に、いまま日本社会が取り組んでいまして、ここの修復に対して数百億円以上の巨額なわれわれの税金が使われています。この不法投棄でございますが、こういう大きな事案は最近では減っているにいたしましても、直近に至りましても不法投棄というのは起こっています。この豊島問題のほかに、当時はもう一つ、ごみの焼却に伴うダイオキシン発生の懸念というのがありました。そういうこともあって、廃棄物の最終処分場が極めてつくりにくくなりました。図のとおり、平成9年、10年は100件強の最終処分場の新規許可があったわけですが、その後は20件、30件一気に減っています(図3)。



ごみの最終処分場というのは、地域にとって不可欠な基盤施設で、より大切にしなければならないという話になってきたということです。結果として、やはりリサイクルへ、そして、ごみの減量へという流れがつけられてきた経緯であったと思っています。

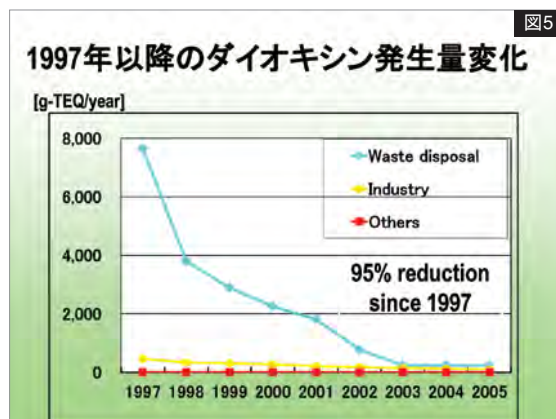
次に、環境問題です。これは、かつてのいろいろな公害問題、大気汚染問題、あるいは騒音や振動の問題、そして水質汚染の問題等々がありました。それに加えて、1990年

代前後から、多くの地球環境問題が生じてきました。それらの環境問題と、この3R、あるいは廃棄物問題と、どう関係するかということですが、相当に密接な関係があります。ごみを埋め立てた後の水の問題、あるいは、ごみを燃やした後の排ガスの問題等々で関係します。このグラフは、ちょうど15年ほど前、国連の環境計画というところが、ダイオキシン類の国別の発生量、特に大気に入る量を国別に並べて、提示してきたグラフです(図4)。



一番右端が米国、真ん中のJPNがJapan、日本です。世界の中で、ダイオキシン類の発生というのは日本が一番多いと指摘をされた、その時代のグラフです。そのダイオキシン類の発生の中で、相当多くがごみを処理する過程で発生するということが分かってきて、日本社会は、90年代から21世紀にかけて、相当この問題に苦労しながら取り組んできました。

97年、政府は「ダイオキシン類対策特別措置法」をつくり、地方政府も、そして多くの処理事業者の方々も最大限の努力をされて、このブルーのラインのとおり、97年段階で約7000から8000グラム程度の年間のダイオキシン発生量があったものが、2005年段階で95%削減できた(図5)。



その後も、徐々に減少できていて、現段階では97年から

98%も削減したという話です。この削減というのは、世界に胸を張っていい結果だと思っています。一つの施設が、あるいは一つの事業者が努力するだけでは、こういう達成は絶対にできません。この成果を欧米の研究者の方々と議論すれば、この達成のパフォーマンスは極めて素晴らしいという評価を、よく受けます。そういった意味では、ごみの関係者がこの問題に、ここ10年、15年、あるいは20年取り組んで、こういう環境対策をやってきたこと、ここは胸を張っているのではないかとと思っています。

さて、3点目の資源問題との関わりです。これは世界の1次エネルギーの需要の見通しについて、2008年度と、2020年、2035年の予測を比較したものです(図6)。

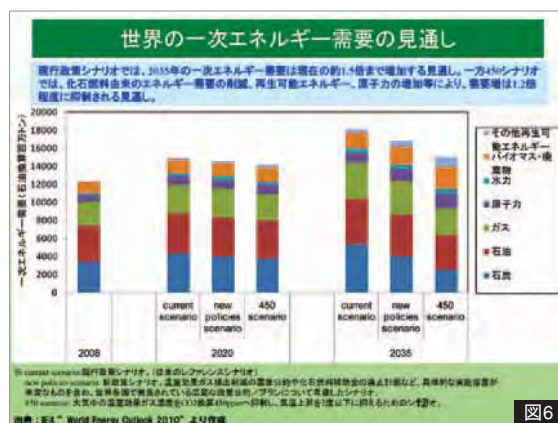


図6

例えば2035年、現在のシナリオでは、このまま世界が経済成長をし、そのときの1次エネルギーの見通しというものを立てていけば、約1.5倍程度になる。それを相当抑制をしていけば、1.2倍程度に収まる。ただ、それでも20%、いまよりもエネルギーの需要が増えていくわけです。次に、いろいろな金属類。(図7)のように、いまわれわれが使い得る原料の埋蔵量を赤線で示していますが、2050年辺りまでには、多くの金属を使い果たしてしまうという見通しが立てられています。



図7

もちろん、その埋蔵量というのは、技術の進歩等々により、あるいは探索等により増えていく可能性がありますから、まだ少しは長く使える可能性があります。ただ、それにしても、相当多くの金属の、ほぼその埋蔵量、掘り出し可能な量というものを使い切ってしまうだろうという見通しが立てられています。銅、鉛、金、銀、スズ、こういった元素です。やはり、経済成長とともに、こういう金属資源の逼迫という状況は生まれてくる可能性が高いということです。

これらのごみ問題や環境問題との関係、そして資源問題との関係、ここから3R、循環型社会に、21世紀は取り組んでいかねばならないという流れになってきたと思っています。

さて、このごみを目の前で見るということで、毎年私どもの研究室は、京都市と共同でこういうごみ調査を行っています。約200、300のごみ袋から、約300項目に細分類し、ごみの組成、あるいは、ごみの由来、どういものがごみになっているのだということを調査するものです(図8)。



図8

1980年から、私の研究室の前任でございました高月紘先生が始められた仕事です。ちょうど毎年秋口に研究室に入ってきた新しい14回生の諸君と共に、また大学の1回生、2回生で、私のゼミを選択している人たちと、ごみの分類作業をしています。最初は非常に興味をもって喜々としてやってくれるわけですが、だんだん口数が減っていきまして、最後は黙々とひたすらやってくれるという風景の写真です。

こういうごみ調査から分かってきたこと、一つは、プラスチック類、紙類といったものの相当多くは容器・包装であるということです(図9)。



かさで見ると、全体のなんと6割が容器・包装材であったということ。この結果を90年代に世の中に訴えかけていったことが、「容器包装リサイクル法」の制定のきっかけになっていきました。「容器包装リサイクル法」ができて、ごみの方から見た場合、まだ組成比というのは、実はそう大きくは変わっていません。ここ数年、若干下がる傾向というのを示していますがそれでも、なかなかこの減量も簡単ではないということも言えるかと思えます。

もう一つは、台所から見たごみということでございます(図10)。



こういう台所ごみ、厨芥ともいいますが、生ごみの約半分は調理くずなのですが、さらにその内訳を見ていくと、食べ残しが相当多く、3割、4割という数字になります。さらにびっくりするのが、手付かず食品。まったく手を付けていない、封も開けていないといった手付かず食品が1割程度ある(図11)。



しかも、その相当多くは賞味期限内で捨てられています。細分類調査をはじめられた高月先生は、飽きるという「飽食」ではなくて、突き放す方の「放食」と名付けられました。まさにこういった状況がいま、家庭ごみの中に一つに起こっているところなのです。なぜ3Rかという話の中で、あえてこの写真を付けさせていただいた理由は、今日武内先生からご紹介がありましたが、マータイさんを紹介いただいた、彼女が世界に伝えた「もったいない」、この点もやはり大事な、3Rを進めねばならない一つのポイントかと思っています。せめて、こういった手付かず食品は将来のごみからなくなってほしいものだと思います。

さて、こういった中で政府も相当の努力をしてこられました。このグラフは最近の一般ごみ総排出量の年次推移です(図12)。



ピークは、2000年前後ということで、総量として約5000万トン。一人が一日当たりに出しているごみの量は、だいたい1.2キログラム弱くらいというところでした。それが平成21年度の実績で、1キログラムを下回ってきました。ここにあるとおり984グラム。これはある意味では画期的といえますが、ようやく1キロを下回ったという意味合いで、非常にうれしく思っている傾向です。今後、この動きをまた見守りたいと思

います。最終処分量、これは最終的にごみを埋め立てる量という意味で捉えていただければ結構かと思います。この10年ほどでだいたい半分に、1000万トン程度あったものが500万トンと、相当最終処分量は減ってきました(図13)。



図13

それに対応するようなかたちで再生利用率、いわゆるリサイクルの率ですが、ここも10%前後のところから2割程度まで上がっている(図14)。

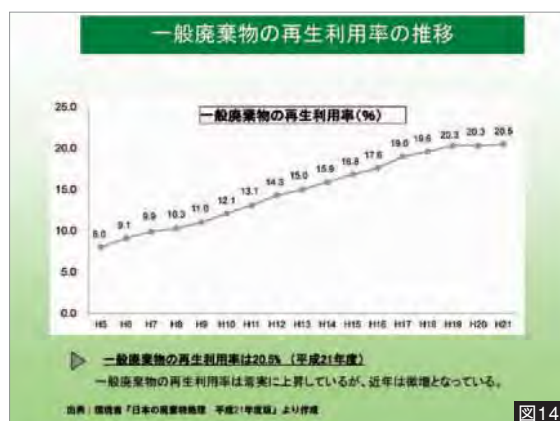


図14

3Rの政策の効果というのは、着実に結果としての数字に表れていると見ていただいてもいいかと思います。

日本全体にいったいどの程度の資源が入ってきて、どう使われ、どの程度リサイクルされるかという日本全体の物質フローを、平成20年度と8年前の平成12年度を比較しますと、全体として使っている資源の量が相当圧縮されてきているということが、この図から分かっていただけると思います(図15)。

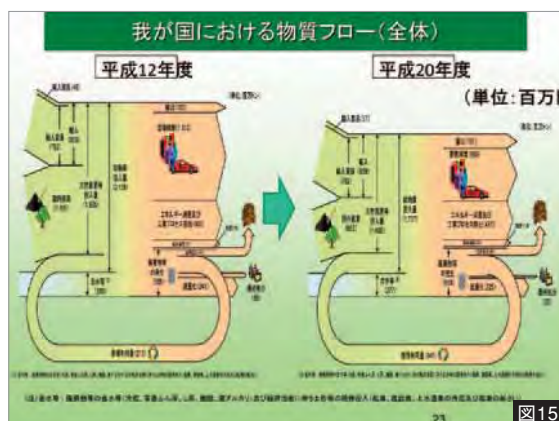


図15

全体として使っていた資源の投入量が、20億トン強から、いまは17億トン強辺りまで減少してきています。一方、循環利用率という、途中の循環している量ですが、この量が徐々に、いま増えています。まさに循環型社会に向けたパフォーマンスというのは徐々に得られつつあります。そして、国は2003年に、物の流れを大きく三つの指標でみようということを提案されました。一つが資源生産性。資源生産性というのは、1トンの資源でもって、いったい幾らの経済価値(GDP)を生んだかという指標です。いわゆるごみ問題と経済問題というのは密接不可分であるため、この二つの指標をくっつけて考えようという資源生産性を世界で初めて導入されました。この指標の導入自体も、高く評価していただいてもいいと思いますが、この傾向が平成2年から平成20年辺りのところで徐々に上がってきているということが、このグラフから見ていただけるとと思います(図16)。

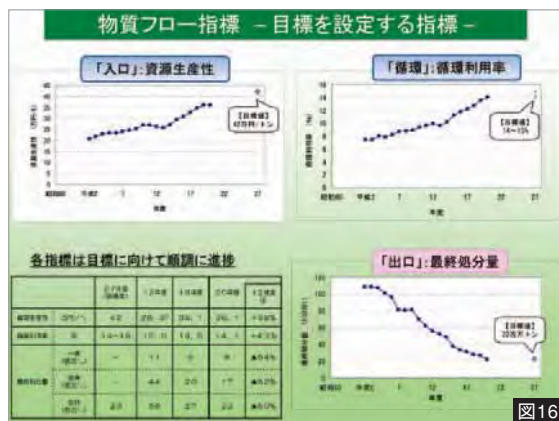
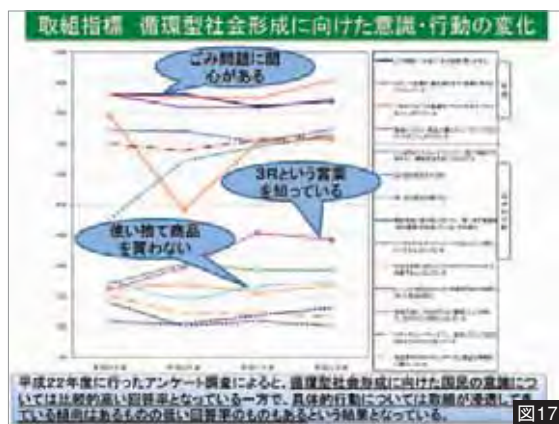


図16

そして、循環利用率と最終処分量。最終処分量は、先ほども申しましたが、一般廃棄物で、この7、8年で約半減といいましたけれども、平成元年レベルと比較いたしますと、なんと約4分の1です。そういう意味では、処分量は見事な減少を果たしてきているといえるのではないかと思います。

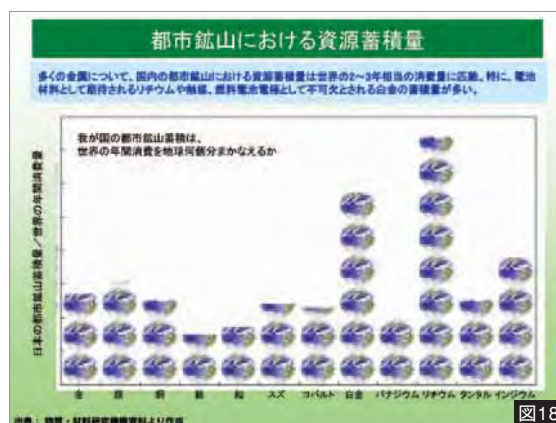
それとともに、いろいろな調査がされています。循環型社

会に向けた意識、行動ということでの変化について、平成19年から4年間の時系列で公表されています(図17)。



常に、ごみ問題には関心がある方々は8割から9割を占めています。3Rという言葉自身も徐々に浸透してくれています。ピンクのラインですが、徐々に増えてきています。ただ、その一方使い捨て商品は買わないという意識を持たれている方々、これはまだ20%にとどまっているということでは、3Rに向けた取組は、まだひと工夫もふた工夫も必要だといえるのも事実かと思えます。

もう一つ、家庭の生活の中で一番密接に関わるのが、家電製品です。エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機といったもの。これらは1997年に「家電リサイクル法」がつくられ、われわれが使用済み製品を排出する段階で、リサイクルのための費用も支払わなければならないということでした。数年前からは、テレビの中でも薄型のもの、液晶テレビ、プラズマテレビもリサイクル対象になりました。これも、徐々に回収台数は増えてきています。こういう家電製品の中に、相当の金属が含まれています。金・銀・銅・鉛・スズ・コバルトといったようなものがありますが、これが都市の中にどの程度存在するか。それと世界の需要量と比較していくと、いったい日本のこういう都市にある金属は世界の年間消費量をどの程度賄えるか。こういったところを物質・材料研究機構の原田幸明先生の方から公表されています(図18)。



これは、相当量が日本国内にたまっていることを示された結果です。その一部は、小型の電気電子機器に含まれているということで、先ほど申し上げた4種類の「家電リサイクル法」対象以外のものの今後リサイクルの在り方というのを考えようとしているところです。今日、横光副大臣の方からご紹介のあった制度検討の一つです。

3Rの意義について、ここまでのところお話を申し上げました。そして、相当のパフォーマンスが上がっているということは自信を持っていいと、ご紹介させていただきましたが、そこに2011年、東日本大震災という経験を、いま日本はしているところです。ちょうど5月7日に、大槌町に行った際に撮った写真です(図19)。



はまゆりという観光船で約200トン程度の重量があったそうです。これが、一つの家の屋根でとどまっている。考えられないような風景が、われわれの目の前にもたらされたということです。マグニチュード9.0、最大の津波の高さ40メートル近いところで、多くの方々がお亡くなりになられたということです。かつ、原子力発電所の事故との関係で、災害廃棄物問題は非常に難しい問題になってきています。

われわれは、1995年、すでに16年前になりましたが、阪神・淡路大震災を経験しています。このときも6000名以上

がお亡くなりになり、多くの火災が発生し、そして、飛散アスベストといったことも大きな問題になりました。こういう経験を踏まえて、今回の災害廃棄物への対応も考えなければならぬということで、私がいま関わっております廃棄物資源循環学会は、ちょうど3月11日の1週間後、3月18日に復興タスクチームを立ち上げて、現地支援を含めて活動を始めました。この経緯は、学会で特に若手会員の方からの、あの現状を見て、近く起こる災害廃棄物問題に学術的立場から何らかの貢献をすべきだという強い声に押されて、1週間後に、こういう組織をつくったということです(図20)。

廃棄物資源循環学会 「災害廃棄物対策・復興タスクチーム」

- ・ 今回の東北地方太平洋沖地震での災害廃棄物に関して、直近でできる支援を行いつつ記録として残すことともに、将来に向けて、詳細な調査研究の実施により、学術的・体系的な知見として取りまとめることを目的に、2011年3月11日東北地方太平洋沖地震の1週間後、3月18日に発足
- ・ タスクチームの目的
 1. 災害廃棄物に関連する情報プラットフォーム形成
 2. 災害廃棄物対策ネットワーク形成と現地支援
 3. 災害廃棄物に関する学術的記録と指針づくり

図20

その内容は、まず情報プラットフォーム。情報について、特に地方行政の方々、あるいは地元でNPO活動をされる方々に、いったい世界にどんな資料があって、国内ではこれまで、どんな指針をつくってきたかを紹介するウェブページを立ち上げ、提供を始めたということです。そして、この10月段階で約150名程度のメンバーで活動を続けています。最初の仕事は、いったいどの程度の災害廃棄物の量なのかということ、これを3月31日段階で、平山修久准教授の推計を基に公表しました。約2673万トンという推計で、その1週間後、環境省から公式推計がでました2500万トンと、ほぼ近い数字が公表されています。世界のほかの地震、災害等を見ていただくと、ハイチ地震は最大で6000万トンという見積もり、四川で2000万トン、ハリケーンカトリーナで7600万立米ということで、やはり大災害に伴う災害廃棄物の量は極めて多いということがいえます(図21)。

表2 災害廃棄物の発生量

発生年次	災害名	廃棄物発生量
2011	東日本大震災	2500万トン
2010	ハイチ地震	約2300～6000万トン
2009	ラクリア地震(伊)	約150～300万トン
2008	四川地震(中)	2000万トン
2005	ハリケーンカトリーナ(米)	7600万m ³
2004	ハリケーンフランシス&ジーン(米)	300万m ³
2004	インド洋津波	1000万(インドネシアのみ)m ³
2004	ハリケーンチャーリー(米)	200万m ³
1999	マルマラ地震(トルコ)	1300万トン
1995	阪神淡路大地震(日)	1500万トン

注: Brownらの総説りに加筆

38

図21

この2500万トンという数字でございしますが、後でご紹介いたしますが、津波の堆積物、いわゆる海底にあった汚泥も、津波で陸上に上げられておりまして、その数字が、どうもそれと同じぐらいの量ありそうだという見積もりを、その後なされています。すなわち、あわせて5000万トン。5000万トンというと、いま日本が家庭等から出すごみの量と、ほぼ同じ量です。それが東北の非常に限られた地域で一気に廃棄物になっている。いかに大きな量かということは、ご理解いただけるかと思います。

そういったこともあって、まず4月5日段階で学術会議の方に、廃棄物資源循環学会を中心に緊急提言をいたし、そして学術会議から、これを発信いただきました(図22)。

日本学術会議の第四次緊急提言(2011年4月5日)

1. 公衆衛生の確保や有害廃棄物対応を念頭におき、緊急の処理・処分を行うこと
2. 水環境に配慮した暫定集積場所を定め、一定の分別を行うこと
3. 復旧・復興における資源活用につながるリサイクルを視野に入れること
 - － コンクリートがらなどを復旧・復興段階でリサイクル活用、木屑は発電利用などにより化石資源を代替
4. 震災廃棄物リサイクルへの地域雇用と広域連携を推進すること
 - － 国際的には、Cash for Workとして推奨

39

図22

まずは公衆衛生の確保、あるいは有害廃棄物対応。これを最初の念頭に置くべきです。そして緊急の処理・処分。それから暫定集積場所が緊急に要るだろうということで、そこで一定の分別を行っていただきたい。それと、どうしても災害廃棄物はすぐに処理・処分の方に頭が行ってしまうのですが、やはりこの段階でリサイクルを視野に入れていただきたいということを申し上げます。いわゆるコンクリート殻であるとか、木くずといったもののリサイクルの価値というのは、やはり非常に高い。これを何とか使おうじゃないかと。そ

れと、もう一つは、広域連携です。この地域だけで処理を完結するのは簡単ではない。日本全体で進めていただきたいという趣旨を申し上げました。これが4月5日段階です。

そういの中で、その後さまざまな活動を進めましたが、今回の震災の非常に難しいところはどこにあるかと申しますと、一つは行方不明の方々が非常に多くおられた。ですから、現場のがれき撤去が、簡単にスピード感を持って進めにくかったということです(図23)。

災害廃棄物に関連する東日本大震災特有の課題

1. 多数の行方不明者の存在
 - 2011年5月末時点でも、死者15,000名、行方不明8,000名以上
2. 失われた私有財産への対応
 - 位牌、アルバム等、所有者にとって価値があると認められるものや動産について、引き渡す機会の提供
3. 海水浸漬廃棄物の存在と適正処理
 - 国立環境研究所倉持室長の講演
4. 津波堆積物の存在と困難な対応
5. 放射能汚染廃棄物の存在

図23

よく、なぜこんなに遅いんだという批判がいろいろところで聞かれたかと思いますが、この点が、最大のスピード感を持てなかったことの理由だと思っています。これは、ある意味では致し方がなかったことです。それに加えて失われた私有財産、位牌でありアルバム等、所有者にとって非常に価値のあるもの、ここも非常に丁寧に現場で対応しながら作業を進めざるを得なかったということです。そういう意味では、少々時間がかかってもしいいのではないかと私自身は思いたいところです。3番目、4番目は、非常にテクニカルな問題ではありますが、ごみが海水をかぶった、塩素を持ってしまったということです。塩素というのは塩化水素とか、あるいは、先ほど申し上げたダイオキシンとも関係します。そういったところでの注意点も必要になってきた。それと津波の堆積物、汚泥が非常に多様であるということが分かってきたということです。最後に、いま直面しているのが放射能汚染の廃棄物の問題になります。

この津波の堆積物は、津波を受けた被災地に残留した土砂、泥状物ということですが、この量を見積もりました(図24)。

津波堆積物の発生量

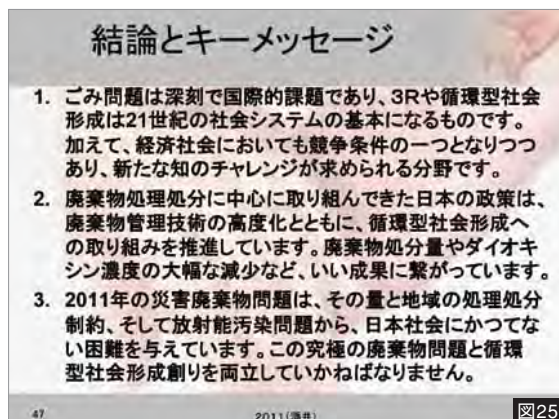
- ・ 津波堆積物の量は、津波浸水面積と津波堆積物の平均堆積厚及び体積重量換算係数を乗じて推定
- ・ 堆積高測定結果より、平均堆積高を2.5～4cm
- ・ 体積重量換算係数として、真比重2.7g/cm³、含水率約50%を用いて、 $(2.7+2.7)/(1.0+2.7)=1.46$ より算出した1.46 t/m³、ならびに産業廃棄物管理票に関する報告書及び電子マニフェストの普及について(通知)『(別添2) 産業廃棄物の体積から重量への換算係数(参考値)』(環境省、2006)で示された汚泥1.10 t/m³を用いた
- ・ 被災地域6県(青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県)で合計1,199～1,920万m³、**1,319～2,802万トンと推計**

図24

そういたしますと、赤のところですが、1300万トンから2800万トンが災害廃棄物の上に載ってきそうだということです。それと、その堆積物が汚染をされていないかを丁寧に分析してきました。幸い、そう高いレベルの化学物質は検出されていないのですが、これを環境省の方に報告しまして、「津波堆積物処理指針」というのを7月に出していただいています。木くず等を取り除いたうえで、無害化し埋め立て、または、盛り土といったようなところの資材に活用できるのではないかと。あるいは、有害物が含まれている場合には、洗浄、焼却、無害化のうえで使っていないかということをご提案しています。

最後に、災害廃棄物の現段階で最大の問題は、放射性物質に汚染された廃棄物問題ということになってきています。福島県内、あるいは福島県内外の上下水道の汚泥、あるいは焼却処理の残渣。そして、放射能汚染されていない災害廃棄物を広域処理する際に、この放射能汚染が問題にならないかということの心配。そして、今後はリサイクル過程での管理という問題が出てきます。非常に難しい問題ですが、これは日本が総力を挙げて取り組まねばならない問題です。

最後の1枚になりました。今日のお話の中での結論、キーメッセージをお伝えします(図25)。



ごみ問題は国際的に非常に重要な課題になってきています。特にアジア地域の中でのごみというのは、大きな都市であればあるほど非常に深刻な問題になってきています。そういう中では3R、循環型社会形成は、21世紀の世界の社会システムの基本になるものです。かつ、経済社会においても、ここを発想することが競争条件の一つとなる、まさに新たな知のチャレンジの領域という認識をしています。そういう中で日本でございますが、廃棄物処理・処分、特に廃棄物管理ということで相当に努力をしてきました。その結果、廃棄物の処分量は相当減ってきた。かつ、ダイオキシンも減らすことができた。これは非常にいい成果につながっているであろうと思います。

ただ、2011年の災害廃棄物問題、この量、地域の地形的な制約、そして、いま申し上げた放射能汚染問題が日本社会に、かつてない困難を与えているという認識をしています。これは、まさに究極の廃棄物問題ともいえるわけです。それとともに、これまで取り組んできた循環型社会形成づくり、両者を含めて進めていかなばならないと思っています。決してあの地域だけの問題ではなく、日本全体で考えたいと思っている問題です。ぜひ、皆様方と一緒に知恵を絞りながら、活動させていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

記念講演



家庭でできる『うちエコ』

タレント

堀 ちえみ

第6回ホリプロタレントスカウトキャラバンで芸能界入りし、1982年“潮風の少女”でデビュー。1983年に出演した“スチュワーズ物語”が日本中で大ヒットし、アイドルとして活躍。現在はテレビ、ラジオ出演の他、執筆・音楽活動など主婦とタレントの両立をしながら多忙な日々を送る。

- 森谷 あらためまして、KBS京都の森谷です。どうぞよろしくお願ひします。
それでは、皆さんがおうちでできるような、様々なエコなお話を、たっぷりとご紹介いただきたいと思ひます。堀ちえみさんをお迎えします。温かい大きな拍手でお迎えください。
- 堀 こんにちは。
- 森谷 堀ちえみさんです。
- 堀 どうも、こんにちは。よろしくお願ひいたします。
- 森谷 いろいろな報道なんかを見ていますと、ご結婚がお決まりになられたようで。
- 堀 そうですね。もう3回目の結婚で、もう本当に。
- 森谷 ねえ、おめでとございます。
- 堀 いや、おめでたいのかどうか、ねえ。もう笑っちゃいますね。
- 森谷 いえいえ。また新たに家族が増えるわけですよ。
- 堀 そうですね。子どもが二人。
- 森谷 いかがな気持ちなんですか。
- 堀 本当に私、子どもが大好きなので、自分の子どもは、もう一番上が21歳で、19歳、18歳、あと11歳と9歳の子どもがいるんですけど。
- 森谷 そこに、また加わってということですね。
- 堀 そうですね、はい。かわいいですよ、やっぱり。
- 森谷 そう、大家族ならではの話がたくさん出そうですね、今日はね。
- 堀 そうですね。
- 森谷 今日は、京都にお越しいただいていますけれども、関西というのは、ゆかりが深いですね。
- 堀 そうですね。
- 森谷 ちなみに、この京都というのは、堀ちえみさんにとってはいかがですか。
- 堀 うちの19歳の次男が、今年の4月に、大学で、こちらに下宿しているんです。
- 森谷 あ、いま、じゃあ息子さんお一人が京都に住んでいらっしゃるんですか。
- 堀 そうなんです。ですから昨日、私は大阪で『ちんぷいぷい』の生放送を終えて、その足で京都へ出てきて、京都で息子と鶏のお鍋を食べて、京都で泊まってきました。
- 森谷 お久しぶりに息子さんと二人で鍋をつつくって、いかがなものなんですか。
- 堀 いや、大きくなったなと思って。3月かな。合格の結果の通知をもらってから、どれくらいかな。もう1週間くらいで、ばたばたと住むマンションを決めて、それで契約をして、京都の駅前のヤマダ電機。
- 森谷 はい。あ、いまはヨドバシか。
- 堀 そこでいろんなものを購入して。ひと世帯分の電子ジャーとか洗濯機とか。
- 森谷 はいはい、一人暮らしできる用の。
- 堀 はい。一人暮らしできる用の。それで家具も買ったり、ばたばたして、4月から息子は住んでという。だから、京都が、ものすごく身近に感じられるようになって。仕事とか観光とかで来ているというより、息子が住んでいる場所という。また、すごい静かな息子なので。
- 森谷 あ、息子さん自身が。
- 堀 そうなんです、すごい。
- 森谷 そんなにこう、べちゃべちゃしゃべるわけじゃなく。
- 堀 あ、じゃなくて。

- 森谷 お母さん、しっかりしゃべらはるんですけど。
- 堀 ですね。私はしゃべりますけど。まあ、しゃべる仕事ですし。
- 森谷 はい。
- 堀 でも、すごく息子は物静かな。で、弓道部に入っ
て弓道をやっているの。
- 森谷 じゃあ、なおのこと精神の乱れは許されないとい
うね。
- 堀 というか、まあ静かな子なので、すごい京都のま
ちが合うし。最初、一緒におうちを探して京都に
来たときにも、あ、この子、京都にすごい合うな
と思っていたんですが、ますますなじんで。
- 森谷 もうこの半年ほどの間で。
- 堀 うん、すごい、ああ、いい男になったなと思いまし
たね。
- 森谷 ほう。ちなみに3月の遅い時期に決まったという
のは、国公立やったということですか。京都大
学辺りに。
- 堀 そうですね。
- 森谷 じゃあ、これから京都の宝にも息子さんになっ
ていってもらわないといけませんのね。
- 堀 まあね、頑張っ。でも、息子が京都に住むよう
になって、小倉町かな。小倉町ですよ。そこに
住んでいるんですけど、京都の方というのは、
学生にすごく優しく、道を歩いていても、ごあ
いさつをしてくださって、すごくいいなと思いまし
た。
- 森谷 じゃあ、もう頻繁にお母さんも京都にも、ちょろ
ちょろと。まあ、あんまり来ると、もうその年の
息子さんだったら。
- 堀 そう、嫌みたいです。
- 森谷 分かりますね。
- 堀 はい。ちょうど息子の部屋から大文字が見える
んです。
- 森谷 まあ、いいところですね。そうなると、もうねえ。
- 堀 そうなんです。だから、娘と二人で、ちょっと大文
字の。
- 森谷 8月16日は。
- 堀 に行っ、ちょっとマンションを占領しようとかか
言っていたら、「もう俺は逃げる」と言われまし
た。

- 森谷 そうですね。これからいろいろと経験もされてい
くのだと思いますが。
先ほど、お子さんが上は21歳からということ
ですので、合計しますと、新たに家族が今度加わ
れば7人の。
- 堀 そうですね。
- 森谷 ね。過去これまでで、こうして次男さんも独り立
ちされたりですけれども、最大、いままでで何人
家族で食事をしていたときもあったのですか。
- 堀 そうですね。8人かな。
- 森谷 最大のときは。
- 堀 はい。うちの両親と、8人。
- 森谷 となってくると、いろいろと料理だ何だとかとい
うのも、工夫していかないといけない部分とい
うのがあると思うのですが。
- 堀 そうですね。お料理をつくるときも、だいたい時
間を逆算して。
- 森谷 あ、そっか。みんなばらばらだったりするんでき
ね。部活だ何だとか、そういうことではなくて。
- 堀 でも、だいたいそろって、ご飯は食べていまし
た。
- 森谷 あ、料理をする手順を逆算してということでき
か。
- 堀 頭の中で、これをしている間にこれをやると、す
ごく効率がアップするとか。
そういうのは。だから、時間の短縮をちょっとで
も考えて。
- 森谷 ええ。プロフィールで「ぐずでのろまなカメだけ
ど」と言っていましたけれども。
- 堀 あ、ドラマでね。
- 森谷 もうてきぱきと、やっぱりしておられるんですね。
- 堀 てきぱきというか、やらざるを得なくて。だって洗
濯だけでも、8キロの洗濯機を1日4回から5回、
回すわけですから。
- 森谷 みんなが部活をやりだしたりするようになると、
汚れものもいっぱいですものね。
- 堀 ですね。もう柔道着とかね、持ってきたら。もう柔
道着だけで回さない。
- 森谷 そういう時期もありましたけれども。でも、だいた
い洗濯は洗濯機がやってくれますけれども、そ
れを干さないといけないという。

だから、その場所もたくさん要りますし、干す場所ね。

雨の日なんかは、もう大変です。冬の雨の日の洗濯物が乾かないのは、もう本当に嫌ですね。

- 森谷 でも、次の日には持っていきたがりますからね。
- 堀 で、ぎりぎりに体操服を出してきたりとか。明日要るとかね。
- 森谷 そんなときは、やっぱり堀ちえみさんも怒られるんですか。
- 堀 怒るっていうか、しょうがないじゃないですか、怒っても。もうしょうがないと思いつながら。5人子どもがいると、もう怒るとかのレベルじゃないです。もういちいち怒っていたらもたないですね。
- 森谷 僕は、ちなみに5人きょうだいの末っ子なんです。もう上から10歳違いから、ずっと均等に離れてきていたので、やっぱり食事一つとっても、ある意味、戦争みたいなものでしたからね。大皿のところにあるのを食べた者勝ちというちだったの、それは激しい中で生存共存していましたね。



- 堀 うち、大皿盛りはしないでおこうと思って。そうすると、唐揚げとポテトサラダとグリーンサラダとを大皿で置くとするじゃないですか。そうしたら、まず最初に減るのは唐揚げなんです。
- 森谷 なるほど。みんな食べたいですよ、お子さんは。
- 堀 そう。で、お野菜も食べなさいと言うと、ポテトサラダ、グリーンサラダは残ったままとか。そうになると、誰が幾つ食べて、誰がお野菜を食べていないかとか分からない。

だから、もう本当にね、エコのトークショーでエコ

でないかもしれないですけども、自分のお皿に全部、本当にちゃんと配膳して、それで、まず出さない。

- 森谷 これだけは、ちゃんと最後まで食べなさいよというものを。
- 堀 というものを、面倒くさいですけども、ちゃんと用意して。そうしないと、誰がどれだけ食べたか分からないし、食欲があるのか、ないのか。
- 森谷 中には、ちょっと恋の悩みをしている中学1年のときもあったかもしれませんものね、息子さんも。
- 堀 恋の悩みだったらいいんですけど、何ていうのかな、病気が隠れていたりとか。
- 森谷 あ、そうですね。そっちの方が重要ですね。
- 堀 そうすると、食欲ないから、そろそろ熱が出るかなとか。何かそういう目安というのかな。それは、ちゃんとしっかり把握しないといけないというので配膳して。面倒くさいですけど。
- 森谷 健康のバロメーターにも、やっぱり食というのはなりますものね。
- 堀 なりますね。あと、偏った食べ方をすると、やっぱりおなかが痛いとか言い出したりするので、取りあえずバランスよく、これだけ食べて、それでお代わりするのだったら、後でまたしたらいいよというかたちで、ずっときています。
- 森谷 3R、もうご存じだと思いますが、ごみを減らすリデュース、再利用するリユース、それをまた再資源化するリサイクルとなるのですけれども。先ほどの料理の手順の話なんかもありましたが、堀ちえみさんの中で、振り返れば、こんなことをしていたなという、そんなエピソード。
- 堀 やっぱこれからは寒いじゃないですか。寒くなると、やっぱり暖を取ろうと。それも、私はもともと暖房とかをがんがんつけるのが、あまり好きではなくて。すごいお肌にもよくないし、喉にもよくないし。ちょっと何か喉ががらがらするなと思うと、一人風邪をひくと、みんなうつってしまう。
- 森谷 次へ次へとね。
- 堀 はい。だから、加湿器とかで保湿はしますけれども、基本、あまり暖房をつけないんですね。だから必然的に、自然とお鍋とか、おでんとか、そう

- いうメニューが多くなって。でも結局、おなかも温まるし、お鍋なんかやっていると暖房とかいれなくても結露するくらい暖くなるじゃないですか。そういうふうにして、やっぱり食べ物、夕飯でお部屋を暖かくしていましたね。
- 森谷 確かに、そうすると、健康面でもお野菜からいろいろと食べられますしね。
- 自然と室内も暖まって、特にこの冬は、もちろん節電というのも一緒に考えていかなければいけない。節約、エコという意味は、もう一緒に進んでいく部分ですものね。
- 堀 そうですね。だから、今年もお鍋料理は、すでにやっていますけれども。
- 森谷 ちなみに、こういうのが堀家の鍋である、みたいなのは、あるのですか。
- 堀 もういろんなお鍋をします。しゃぶしゃぶはもちろん、あとはカレー鍋もしますし、豆腐鍋もしますし。いまはもう、すごく便利なのは、ちょっと買って帰るのは重たいですけども、お鍋のいろんなスープが売っているじゃないですか。やっぱり体にも、お鍋はすごくいいので。カロリーも控えめですし、鍋の種類によっては。だから、やっぱりお鍋はいいなと思いますね。
- 森谷 料理ということでは、堀ちえみさんも『子どもと楽しくパパッと母ごはん(堀ちえみの子どもがよろこぶパパッと母ごはん)』というレシピ本を出されていますけれども、ああいうのなんかは、うちでつくっている中からアイデアとか、いろいろあるのですか。
- 堀 全部ですね。
- 森谷 そこをちょっと振り返ってみて、こんなのがあったな、みたいなのはありますか。
- 堀 よくつくったなと。よくつくっているのは、お野菜をいっぱい、ちょっと小さめのさいの目切りにしてスープをつくるんです。ダイコンであったり、ダイコンでないときはカブラであったり、ニンジン、シタケ、ジャガイモ、タマネギ、もういろんなお野菜を入れて。サツマイモを入れたり、カボチャを入れるときもありますね。あとは、ベーコンであったりハムであったりを細かく切って。そのときによって、お野菜とかはね。
- 森谷 もう冷蔵庫にあるものでいいということなんですよね。
- 堀 もう、そうですね。セロリとかも細かくして入れてしまったりとか。ベーコンがないときはハム。ハムでないときとかだったら、鶏肉とか小さく細かく切って、それをオリーブオイルとかで炒めて。そこにお湯を入れて、ブイヨンを入れて、あとは隠し味に、おしょうゆであったり、お塩であったり、コショウで調整してという、本当にごく普通のスープなんですけど、お野菜がいっぱい取れるので、これはすごく便利で、子どもたちの試験の日とか、受験の日とかに、よく飲ませて送り出していました。
- 森谷 温まるし、体も強くなるし。
- 堀 試験とか受験のときというのは、おなか痛くなってしまうと、一番やっぱりつらいと思います。
- 森谷 そうですね。緊張からというものもありますね。
- 堀 ありますから。だから、あまりしつこいものとかは取らせないようにして。
- 森谷 確かに、敵に勝つで、ピフテキとトンカツとって、そんなん食べていったら大変なことになりますものね、朝からね。
- 堀 朝から。縁起を担ぐのにはいいかもしれないんですけど。そのスープで、もっと食べやすくするときには、その中にご飯を入れてリゾット風。チーズを入れたりして、そういうふうにして飲ませたりとかしていました。
- 森谷 男のお子さんじゃないですか。結構、野菜嫌いな子が多いんですけど、堀ちえみさんのところは、みんな息子さんは野菜は気にしないで。
- 堀 お野菜、大好きですよ。
- 森谷 やっぱり小さいときから、そういう料理を食べさせていたというのも大きいんですね。
- 堀 そうですね。お野菜は、いくら食べてもいいと思ったので。だから旅行とかに行ったら、道の駅とかありますよね。あそこで、もう箱ごと、お野菜をいっぱい買って。
- 森谷 それじゃあ、仕事だ、ロケだというときもありますよね。そういうところに立ち寄ることもあるんですか？
- 堀 あります。もうね。仕事で田舎の方とかに行ったら

りすると、道の駅に行くので有名でした。

- 森谷 ロケバスですずっと行っていて、ちょっと休憩をと
いうのは、もう道の駅にしましょう。
- 堀 そう。みんなお手洗いとかに行って。
その休憩の間に、これと、これと、これと買って、
それで送ってもらったりとか。
そうすると、新鮮なお野菜が安くでたくさん買え
るので、それを持って帰って。
だから、1回、滋賀かどこかに旅行に行ったとき
に、道の駅で、いつものとおりにお野菜を買っ
ていたら、どこかで夕飯を食べて帰るつもりだっ
たんですね。
ところが子どもたちが、ジャガイモとかタマネギ
とかを見て、「ねえ、お母さん、いまから帰ってさ、
家でカレーを炊いてほしい」と言いだして。それ
で近くの鶏肉屋さんが開いていたので、そこで
鶏肉を買って、わざわざ旅行の最終日に、早め
に家に帰ってカレーを炊いたということもありま
した。
- 森谷 あはははっ。本当に小さいときから食べている
からというのがあるのですが。仕事を忙しくされ
ながらも、できるだけそういう、食は特に気を使
われたから、もう、それが一番になっているん
でしょうね、お子さんにはね。
- 堀 だから、何でもいから家のご飯が食べたいと
言われたりしていたので。そんなときには、本当
にご飯をすぐ炊いて、ご飯が炊ける間に、おみ
そ汁をつくったり、卵焼きを焼いたりとか。もうそ
れでもいいから家のご飯と。
だから、昨日の下宿している次男に、彼はよく自
炊をしていて。写メを撮って、「今日の僕のご
飯」といって送ってくれたりしていたんですよ。
最近、何か送ってこないなと思って。
- 森谷 はい、誰か別の人がつくっているんですかね。
- 堀 分からないですけどね。そうかもしれませんね。
それだったらいいんですけど、何か、うん。
- 森谷 外食が増えているかもしれないですね。
- 堀 外食が増えていたら、ちょっと心配かなと。何か
「最近つくってない」と言っていたので。
- 森谷 また、お母さんも教えていただいて。
今日、その3Rのということで、これから3日間に

わたって、今日はこういう式典が中心ですけれ
ども、明日、明後日になりますと、お子さんも一
緒に楽しめるような、学べるようなイベントが日
曜日まで繰り広げられていくのですが、リデュ
ース・リユース・リサイクルという点から、堀ちえみ
さんが、ご家庭でされていることって、何かあり
ますか。

- 堀 それはもう子どもたちの小さいころから、子ども
の方がエコの意識というのが高いというか。
- 森谷 もったいないよという気持ちが。
- 堀 学校で、やっぱり授業で先生から、エコに関し
ていろいろ学んで、社会科で学んでくるんです
よね。ですから、子どもたちの方が工作とかも凄
い上手で、ペットボトルを使って輪ゴム掛けをつ
くってくれたりとか。
- 森谷 なるほど。輪ゴムを掛けておけるやつを手づくり
で。
- 堀 手づくりで、作ってくれたりとか、ペットボトルを
利用して物を入れるケースをつくってくれたりと
か、「これをこういうふうに筆筒の中に入れてい
たら、お母さん、なくさないで済むよ」とかいて
教えてくれたり、アイデアは子どもの方がすぐ
て。
- 森谷 確かに、うちもいま小学生なので、ちょっと賞味
期限が過ぎちゃった、失敗しちゃった、なんてあ
ると、「はあ」とがっかりされると、ちょっと頑張ら
ないといけないと思いますものね。子どもの方
が、そういう観念がしっかりしていますからね。
- 堀 だから、地球上のごみとかという問題よりも、宇
宙のごみの話とかをするので、それをどうしたら
いいんだろうという、将来ね。そんな話なんか
を、もう10年ぐらい前にしていたので、やっぱり
子どもの意識の方が凄く進んでいるし、高いな
と。生まれたときからエコという言葉があった状
態で、ずっと育ってきているので、子どもから学
ぶことが凄くたくさんあります。
私がやれることというのは、本当に、またお料理
の話になるのですけれども、このへたをスー
プに使えるかどうかとか。あとは、蒸し鍋も、うちは
よくするんですけれども。
- 森谷 あのスチーム何とかって、ここ数年流行ってい

- ますものね。
- 堀 ええ。うちの蒸し器は土鍋なんですよ。
土鍋のものを使っているんですね。そうしたら下に、どの蒸し器もそうですけれども、蒸した、良いお出汁が下にたまるんです。
それを利用して、おじやを作ったりとか。捨ててしまうのは簡単なんですけれども、やっぱりいいお出汁が出ているのに、使わないのがもったいないなと思って、そこに麺を入れたりして。それも再利用ですね。
 - 森谷 タジン鍋でしたっけ、スチームのね。
「ああいうのは、無駄なものを全部落とすからダイエットにいいのよ」みたいな、そういう言われ方もしますけれども。
 - 堀 そう。だから、私たちには栄養が高すぎるかもしれないかもしれませんけれども、子どもたちだったら、いいじゃないですか。
 - 森谷 まあ、お肉の脂がというのだったら、そんなにですけれども、お野菜から出てくるエキスというのは、いいものばかりですものね。
 - 堀 ですね。だから、そういう再利用をしたりとか。
あとは、夏場だったらベランダ一面に、ガーデニングが好きで木がたくさんあるんです。
 - 森谷 ゴーヤーとかじゃなくて、木を。
 - 堀 じゃなくて、本当、カボックなんですけど。それを鉢で三つ。そうしたら、ものすごく枝が茂っているので、緑のカーテンになるから。あれはやっぱりすごく、緑のカーテンって、ものすごく涼しいですね。
 - 森谷 そうですよ。ゴーヤーでされている方が、いま本当に増えていますが、同じ緑ですよ。それで太陽の光を遮るだけで、全然室内の温度も違う。
 - 堀 違います。その前に睡蓮鉢を置いて、その中で金魚を飼っているんですけど。
やっぱり何か、ちょうど和室のところをそうしているんですけれども、パツとのぞいたら、ものすごく癒やしにもなりますし、すごい涼しいし。掃除をパツとやった後に、そこに座って眺めると、ああ、気持ちいいなと思って。
 - 森谷 確かに掃除して、汗はかく、疲れる。もしかした

- ら、ちょっとイライラともくるけれども。特に夏だと。金魚を見て、水を見ながら、ふっと癒やされていくと、体の熱もずっと下がって。
- 堀 ね。凄く、凄くいい時間。
だから、そういう空間というのを。だからエコというと、もう節約、節約、節約と言うと、ひと昔前だったら、すごく苦痛なものという意識があったり、贅沢な方が気持ちよかったりという。
でもいまは、そうじゃなくて、凄く楽しんでエコができるし、エコをした後に、ああ、なんて気持ちが良いんだろう、爽やかなんだろうと思えるというのは、すごく素晴らしいことだなという。苦痛で、何としても電気代の節約をして、みたいな。
 - 森谷 ああ、そうですね。もうそれで、「またお父さん、もうつけてからに、もう」といって、イライラしていたら、楽しくないし、しんどいですよね。怒られるお父さんも、「いや、分かっているけどもやな。君、しかし」というね。お子さん追い回したりするというのも、大事なことなんですけれども、そういうふうにイライラしながらの節約というのは、ちょっとしんどいので。
 - 堀 でも、さっきも言いましたように、子どもの方がエコの意識が高いので。やっぱり気付いた人が、例えばお手洗いをした後に、電気をつけっぱなしだったら消していくというのが、いまの子というは、それが備わっているんだなという。
 - 森谷 じゃあ、お母さんが消し忘れていても、自然と何も言わないで、ずっと。
 - 堀 うん。ぱちんと消している。だから、それというのは、さりげない思いやりと、あと気遣いだと思うんですよ。だから、それを見ていてやっぱり、「誰、つけっぱなし」ではなくて、それを見つけたら、自分がやったのではないけれども、やってあげるといふ心の広さというか。
エコが人の気持ちとかを小さくしていくのではなくて、エコによって、すごく気持ちがホッとして大きくなれるというのは、すごくいいことだな。いい時代だなと思いますね。
 - 森谷 人を助ける。大きい言い方かもしれませんがけれども、そういう動き、行動を、また違うお子さんが見ていたりしたら、あ、次は自分も黙ってしよう

かなと、そういう気持ちにも広がって、いい意味で伝播していくんですものね。

- 堀 うん。だと思いますね。
あと、山登りとかもよくやっているんですけど。お兄ちゃんたち3人連れて、ほぼ毎週山に登っているときにも、やっぱりごみを一人が捨てると、みんな捨ててしまうんでしょうね。ものすごいごみの山が、山頂の一角にあったりするんです。

- 森谷 ここだったらいいかなというのが、一人、二人が、どんどん大きな山にね。

- 堀 そうなんです。お弁当の残りの折だったとか、そういうのが山積みになっている部分があったりしたのを、お兄ちゃんたちがゴミ袋を持って全部それを処分して、自分のリュックの中に入れているのを見たときに。

- 森谷 えっ。それは、べつに堀ちえみさんが何を言ったわけでもなく。

- 堀 ないです、全然。なんで大きなゴミ袋を持ってきたのかと聞くと、前回登った山で3人で「駄目だね。どうして大人はこんなことをするんだろう」と言って、次の山登りのときも、きつとゴミがあるだろうから、そのゴミを持って帰ろうと、3人で話し合っていたみたいで。

私は4男の方に気が行っていたから、最初は気付かなかったんですけど、そういうふうな3人で言い合って、3人ともゴミ袋を持ってきたみたいなんです。

それを拾っているのを見て、びっくりして。それで、なんで持ってきたのと言ったら、そういうふうな答えたので、やっぱり子どもって、凄く心が綺麗だから、こういうものを見たら、凄く辛くなるんだろうなと思って。もう思いっきり褒めましたけど。

私は自分で反省しました。私はいい大人なのに、見て見ぬふりをしていたんだなという。

- 森谷 もちろんそんなところでゴミを捨てないというのが、まずは大前提で必要なんですけども。それを、僕もそうですけど、「困ったなあ」で、そのままにしてしまいますよね。

それをお子さんなんかは、僕がやっというてあげたら、ここのごみがなくなったら、おそらくまた次の

人は捨てないんじゃないかということも考えて。

- 堀 かなというのは分かって。だから、それは学校とかで習っている意識の高さというのもあるんだろうなと、凄い思っ。それから、凄いエコについて、子どもたちと話すようになりました。

- 森谷 大会のコンセプトとして「ひとりひとりが行動するエコ」。もちろんご自身が一つ一つ環境のことを考えて、ごみを減らしていくことを考えることも大事ですけれども、いまの堀ちえみさんの話にあるように、そこからまた、気持ちに余裕があれば、ほかの家族のために、それがまた他人のために広がっていくのが、本当の意味でのエコかもしれませんよね。

- 堀 はい。だから、まずは自分の背中を見せるということが大事。

- 森谷 おうちの中ではね。

- 堀 はい。そういう意味で、子どもとエコ、お孫さんとエコの話をするというのは、すごくいいことだなと思います。

- 森谷 お母さんであり、タレントであり、来年は歌手デビュー30周年ですか。

- 堀 そうなんです。デビューして30年って、何か恐ろしいなと思います。

- 森谷 いえいえ。ですから、まだまだご活躍も期待されますし、今日は母としての立場からの3Rということで、ごみをどうしていこうか、そんなお話もたくさんいただきました。

あらためまして、堀ちえみさんに大きな拍手をお送りください。ありがとうございました。

- 堀 ありがとうございます。

- 森谷 ぜひ皆さん、お一人お一人の活動が、気付けば周りへの方への気遣い、そうしたエコ活動を続けていただきたいと思います。



大会宣言

 京都市立錦林きん りん小学校

錦林きん りん小学校は142年の歴史があり、校区には、この会場みやこめっせや、観光地として有名な平安神宮や京都市動物園などがあります。京都市では、ごみの量が一番多かった2000年から、ごみ半減に取り組んでおり、学校でもごみを減らすなど、環境を守るために様々な工夫をしています。


 京都市立錦林きん りん小学校による大会宣言

ごみを減らすリデュース。

使えるものは無駄なく使い切ります。また、学校で出たごみは資源ごみをきちんと分別しています。買い物へ行くときは、エコバッグを持っています。また、シャンプーや洗剤は詰め替えできるものを使っています。落ち葉を集めて肥料にしたり、卵の殻を植木鉢に置いたりしています。また、料理で出た野菜の端切れなどは飼育の餌に使っています。

使えるものを繰り返し使うリユース。

裏が白い紙は計算用紙やファックスを送るときに利用しています。小さくなった服は、いとこや知り合いにあげたり、古いタオルを雑巾として使ったりしています。少年野球のときは水筒を持参していますが、ペットボトルの空き容器をきれいに洗って、飲み物を入れることもあります。

使えるものに変えるリサイクル。

資源回収をして、もう一度使えるものに変えるリサイクル活動は、学校のPTA活動や地域でも取り組まれています。給食の牛乳パックは、「めぐレットペーパー」というトイレトペーパーに生まれ変わり、学校に届きます。段ボールや新聞紙の古紙回収もしています。PTAでは定期的にアルミ缶回収整理を、地域では日を決めて使用済てんぷら油の回収をというように、リサイクル活動を行っています。

これからひとりひとりができることを実行して、少しでもごみを減らしていきます。

リデュース・リユース・リサイクル、3Rを推進します。

3.京都市環境展

オープニングセレモニー

プログラム

- 主催者挨拶 徳丸 久衛 [環境省近畿地方環境事務所長]
坪内 俊明 [京都市環境政策局長・実行委員長]



徳丸 久衛
[環境省近畿地方環境事務所長]



坪内 俊明
[京都市環境政策局長・実行委員長]

- アトラクション 京都学生祭典実行委員会「京炎 そでふれ!」

- テープカット 徳丸 久衛 [環境省近畿地方環境事務所長]
坪内 俊明 [京都市環境政策局長・実行委員長]
林 里香 [環境省近畿地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課長]
西脇 悦子 [京都市地域女性連合会 会長]
高月 紘 [京都市ごみ減量推進会議 会長]
武内 和彦 [3R活動推進フォーラム会長]
稲垣 繁博 [京都商工会議所 産業振興部長]
文 盛厚 [社団法人 京都府産業廃棄物協会 会長]
新川 耕市 [京都環境事業協同組合 理事長]
宮川 精慈 [日本チェーンストア協会 関西支部 参与]
辰巳 綸紗 [第9回京都学生祭典 実行委員会 実行委員長]



京都学生祭典実行委員会「京炎そでふれ」



テープカットの様子

3.京都市環境展

京都市環境展レイアウト



出展団体

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 環境省 / 環境省近畿地方環境事務所 | 16 イオンリテール株式会社 |
| 2 スチール缶リサイクル協会 | 17 ふろしき研究会 |
| 3 NPO法人 コンシューマーズ京都 | 18 NPO法人 資源循環型社会推進機構(RCS) |
| 4 公益社団法人 食品容器環境美化協会 | 19 京都サンガF.C. |
| 5 NPO法人 地域環境デザイン研究所ecotone | 20 株式会社白石バイオマス |
| 6 一般社団法人 JBRC | 21 タマヤ株式会社 |
| 7 NPO法人 木野環境 | 22 三菱マテリアル株式会社 |
| 8 社団法人 日本有機資源協会 | 23 日立造船株式会社 |
| 9 NPO法人 障害者支援チャリティ協会 | 24 京都市ごみ減量推進会議 |
| 10 第9回京都学生祭典実行委員会 | 25 宝酒造株式会社 |
| 11 社団法人 京都府産業廃棄物協会 | 26 京都市環境政策局 |
| 12 京都環境事業協同組合 | 27 京都ベレット町家ヒノコ |
| 13 株式会社タイセイ | 28 3R活動推進フォーラム・(財)廃棄物研究財団 |
| 14 セブンティーン株式会社 | 29 京都市地域女性連合会 |
| 15 京(みやこ)エコロジーセンター | 30 京都生活協同組合 |

展示風景

大会シンボルオブジェ“ チクリンの庭 ”

廃材や竹を使用し、来場者ひとりひとりが楽しみながら3Rの循環を体験できる大きな庭を制作。(京都芸術デザイン専門学校制作)



森小夜子と仲間たち「江戸時代に学ぶエコ生活」

「江戸時代の庶民の生活」こそ持続可能なエコ生活、との考えを元に1/5の縮尺で同時代の庶民生活を人形中心に再現。



東日本大震災写真展

京都在住で専修寺住職の岸野亮哉氏が撮影した東日本大震災の写真作品と京都市環境政策局が実施した震災支援活動の様子を展示。



展示風景

地域の取組紹介コーナー

小学校区を基本単位とする地域ごみ減量推進会議を全国にアピールするため、各地域ごみ減量推進会議から集めたごみ減量等に関するメッセージ等を展示。



電動パッカーの展示

京都市環境政策局の電動パッカー(ごみ収集車)を展示するとともに、ごみの積み込み体験を実施。



EV(電気自動車)の展示

低炭素社会と公害のない社会の実現を目指し、京都市がカーシェアリング実施しているEV(電気自動車)を展示。



展示風景

出展者ブース

環境保全活動に取り組む、NPO・民間企業・行政等によるブース展示を実施。



1.環境省 / 環境省近畿地方環境事務所



2.スチール缶リサイクル協会



3.NPO法人 コンシューマーズ京都



4.公益社団法人 食品容器環境美化協会



5.NPO法人 地域環境デザイン研究所ecotone



6.一般社団法人 JBRC



7.NPO法人 木野環境



8.社団法人 日本有機資源協会



9.NPO法人 障害者支援チャリティ協会



10.第9回京都学生祭典実行委員会



11.社団法人 京都府産業廃棄物協会



12.京都環境事業協同組合



13.株式会社タイセイ



14.セプンティーン株式会社



15.京(みやこ)エコロジーセンター

3.京都市環境展

展示風景

出展者ブース

環境保全活動に取り組む、NPO・民間企業・行政等によるブース展示を実施。



16.イオンリテール株式会社



17.ふろしき研究会



18.NPO法人 資源循環型社会推進機構 (RCS)



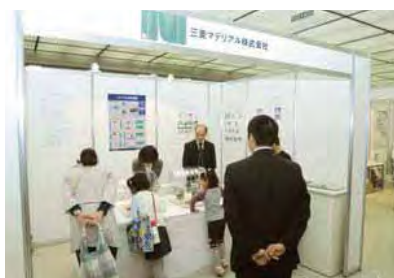
19.京都サンガF.C.



20.株式会社白石バイオマス



21.タマヤ株式会社



22.三菱マテリアル株式会社



23.日立造船株式会社



24.京都市ごみ減量推進会議



25.宝酒造株式会社



26.京都市環境政策局



27.京都ペレット町家ヒノコ



28.3R活動推進フォーラム(財) 廃棄物研究財団



29.京都市地域女性連合会



30.京都生活協同組合

展示風景

飲食ブース

富士宮やきそば、十和田バラ焼きうどんなど、全国各地の「B級グルメ」の飲食ブースを出展。

ごみを減らして環境に配慮したイベントにするため、リユース食器(洗うことで繰り返し使うことのできる食器)を全面的に導入。



リユース食器アンケート結果

第6回3R推進全国大会「京都市環境展」飲食ブースにおいて提供された食事、飲み物の食器について、リユース食器が利用された。環境省では、10月29日、30日の2日間で飲食ブースに訪れた一般市民の方に対し、任意協力いただきアンケートを実施した。取りまとめ結果(概要版)を下図に示す。京都市では政策としてイベントにおけるリユース食器利用を積極的に推奨してきた背景もあり、これまでに使用した者が44.4%(126/284)と高い特徴が出ている。設問2では複数回答可としているが、「環境対策に貢献出来た良い」の回答が全体の85.6%(243/284)に達しているのに対し、全体の26.4%(75/284)が「衛生面が不安」を持っていることが明らかとなった。また、設問3ではコストが高くなってもリユース食器を使うべきとの回答が80.3%(228/284)に達し、環境付加価値が受け入れられている特徴が強く出ている。設問4でいただいた意見、要望も踏まえながら、特にマイナス面の評価を丁寧に取り扱っていくことが今後の課題である。

【Q1】これまでにリユース食器を使ったことはありますか。

はい 126人(44.4%)

いいえ 158人(55.6%)

【Q2】リユース食器を使った感想をお聞かせください。(複数回答可)

プラス面

- ・環境対策に貢献できてよい(111人)
- ・大学や町内の祭りで使ってみたい(14人)

マイナス面

- ・返却が面倒(12人) ・衛生面が不安(28人)
- ・紙皿や紙コップの方が良い(3人)
- ・料金に課金されていないか不安(5人)
- ・大きさと料理の量が合っていない(7人)
- ・その他(17人)

プラス面

- ・環境対策に貢献できてよい(132人)
- ・大学や町内の祭りで使ってみたい(12人)

マイナス面

- ・返却が面倒(9人) ・衛生面が不安(47人)
- ・紙皿や紙コップの方が良い(0人)
- ・料金に課金されていないか不安(13人)
- ・大きさと料理の量が合っていない(4人)
- ・その他(9人)

【Q3】使い捨て容器よりもリユース食器の方がコストが高くなる場合があります。それでもリユース食器を使うべきだと思いますか。

はい 105人 いいえ 9人 その他 12人

はい 123人 いいえ 23人 その他 12人

【Q4】リユース食器に関する意見・要望

プラス面

- ・ごみの量が減り大変良い取組だと思ふ(5人)
- ・もっと利用できる場所が増えて欲しい(5人)

マイナス面

- ・多くの人が使うので衛生面が心配(6人)
- ・コスト面が大きな問題ではないか(2人)
- ・回収、洗浄方法が難しい(2人)

その他

- ・バイオマス食器の利用に取り組んで欲しい(2人)
- ・食器の材料は環境に良いものなのか、リサイクルできる材料なのか(2人)

プラス面

- ・もっと利用できる場所が増えて欲しい(11人)
- ・ごみの量が減り大変良い取組だと思ふ(4人)

マイナス面

- ・多くの人が使うので衛生面が心配(6人)
- ・コスト面が大きな問題ではないか(3人)
- ・衛生管理がきちんとしてられているか目に見えるようにして欲しい(3人)

その他

- ・洗浄した際の環境負荷と使い捨て食器の環境負荷と比べた場合どうなのか(5人)

3.京都市環境展

ステージイベント

時間	メインステージ	ミニステージ
10月28日(金)		
10:00 ~ 10:30		
10:30 ~ 11:00		
11:00 ~ 11:30	大会式典	
11:30 ~ 12:00		
12:00 ~ 12:30		
12:30 ~ 13:00		
13:00 ~ 13:30		オープニングセレモニー
13:30 ~ 14:00		絵巻物がつなぐエココロ 絵画プロジェクト
14:00 ~ 14:30		出展ブースPR
14:30 ~ 15:00	地域でつくった容器包装2R事例発表会	
15:00 ~ 15:30		
15:30 ~ 16:00		
16:00 ~ 16:30		容器包装材削減に関する パネルディスカッション
16:30 ~ 17:00	再生可能エネルギービジョン市民意見交換会	
17:00 ~ 17:30		
10月29日(土)		
10:00 ~ 10:30		
10:30 ~ 11:00		笹岡隆甫 いけばなパフォーマンス
11:00 ~ 11:30	それいけ!アンパンマンショー	出展ブースPR
11:30 ~ 12:00		わが町のエコ自慢
12:00 ~ 12:30		
12:30 ~ 13:00		KBS京都ラジオ 公開生放送
13:00 ~ 13:30		
13:30 ~ 14:00		廃品演奏家 山口ともステージ
14:00 ~ 14:30		ぱぱとはるのサイエンスショー
14:30 ~ 15:00	ノッポさんと エコ工作 "で遊ぼう!!	それいけ!アンパンマンショー
15:00 ~ 15:30		
15:30 ~ 16:00		
16:00 ~ 16:30		
16:30 ~ 17:00		
10月30日(日)		
10:00 ~ 10:30		
10:30 ~ 11:00		
11:00 ~ 11:30	トータルテンボス・小泉エリなどによる ステージショー	ふろしきワークショップ
11:30 ~ 12:00		出展ブースPR
12:00 ~ 12:30		わが町のエコ自慢
12:30 ~ 13:00		
13:00 ~ 13:30		
13:30 ~ 14:00		ハイムーン先生による 環境マンガワークショップ
14:00 ~ 14:30		
14:30 ~ 15:00	小泉エリ・宇都宮まき・桜 稲垣早希 エコステージショー	
15:00 ~ 15:30		
15:30 ~ 16:00		ダブルダッチ(縄跳びパフォーマンス)
16:00 ~ 16:30		
16:30 ~ 17:00		

メインステージ

地域でつくった容器包装2R事例発表会

10月28日(金) 14:00 ~ 15:45

先駆的实践者から「リサイクルを超えた2Rのヒント」を聞く事例発表と、参加者を交えた情報交換会を実施。

企画・運営：京都市ごみ減量推進会議、NPO法人環境市民



地域でつくった容器包装2R事例発表会
演者・演目一覧

- インドネシアにおけるプラスチック包装(レジ袋)に対する2Rの取り組み事例
ラウイン・バステアラウイン[インドネシア政府環境省所属、京都大学環境科学センター、JICA長期研修員]
- 千里リサイクルプラザ研究所エコイベントプロジェクト リユース食器貸出事業
大澤 浩子[千里リサイクルプラザ市民研究員]
- 無理なく楽しく社会を変えよう! 減装(へらそう)ショッピングプロジェクト
小島 理沙[NPO法人ごみじゃぱん 事務局長]
- 容器包装お返し大作戦!...容器包装 断る・返すで ごみ減量...
青木 哲哉[東京都日野市環境共生部ごみゼロ推進課]
- 「市民×産×官×学」のあり方を模索して...
浅利 美鈴[京都大学環境科学センター 助教]

コーディネーター 堀 孝弘

NPO法人環境市民 事務局長、
京都市ごみ減量推進会議 理事

再生可能エネルギービジョン市民意見交換会

10月28日(金) 16:00 ~ 17:30

京のアジェンダ21フォーラムが策定中の再生可能エネルギービジョンを題材として、パネルディスカッションを実施。

企画・運営：京のアジェンダ21フォーラム、京都市ごみ減量推進会議



再生可能エネルギービジョン
市民意見交換会

- 再生可能エネルギー利用者へのインタビュー
 - ・インタビュアー：田浦 健朗[NPO法人気候ネットワーク事務局長]
 - ・太陽光発電(個人宅)：中村 和歳[NPO法人太陽光発電所ネットワーク・PV-Net京都地域交流会代表]
 - ・太陽光発電(事業所)：中村 悠[真宗大谷派(東本願寺)]
 - ・ペレットストーブ(個人宅)：森川 恵子[NPO法人京都土の塾副理事長]
 - ・太陽熱温水器他(個人宅)：木原 浩貴[京都府地球温暖化防止活動推進センター事務局長]
- 再生可能エネルギービジョンづくりへ向けた意見交換
 - ・コーディネーター：田浦 健朗さん[NPO法人気候ネットワーク事務局長]
 - ・「京の再生可能エネルギービジョン・市民版(案)」について紹介：
豊田陽介[NPO法人気候ネットワーク]

司会 井上 和彦

京のアジェンダ21フォーラム
事務局長

3.京都市環境展

メインステージ

それいけ!アンパンマンショー 10月29日(土)1回目11:00～2回目15:00～(2回目はミニステージで実施)

大人気のアンパンマンが登場。「カレーパンマンとしらたまさん」を開催。



ノッポさんと“エコ工作”で遊ぼう!!

10月29日(土)14:00～16:00

NHK教育テレビ“できるかな”で人気のノッポさんのステージ。親子を参加者に牛乳パックなどの廃品を活用した工作教室を開催。



メインステージ

トータルテンボス、小泉エリ等によるステージショー 10月30日(日) 11:00 ~ 12:00

テレビで活躍中のトータルテンボス、小泉エリ、矢野・兵動等の多彩なタレントによる、家族みんなで楽しめるステージ。



小泉エリ、宇都宮まき、桜 稲垣早希エコステージショー 10月30日(日) 14:30 ~ 15:30

よしもとを代表する「アイドルタレント」の3名が、エコをテーマに楽しいステージを披露。



3.京都市環境展

ミニステージ

絵巻物がつなぐエココロ 絵画プロジェクト

10月28日(金) 13:30～14:00

東北の被災地の子どもたちと一緒に絵巻物を作成した京都の子どもたちが、復興支援を願って再び絵巻物を作成。作成した絵巻物は会場内に展示。

企画・運営：びっくり!エコ実行委員会、京都市ごみ減量推進会議



出展ブースPR

10月28日(金) 14:00～14:30 / 10月29日(土) 11:00～11:20 / 10月30日(日) 11:30～12:00

環境展出展団体による取組PRを実施(写真は京都市地域女性連合会による取組PRの様子)

10月28日(金)	京都市地域女性連合会
10月29日(土)	公益社団法人 食品容器環境美化協会 一般社団法人 JBRC
10月30日(日)	株式会社タイセイ NPO法人 資源循環型社会推進機構(RCS)



容器包装材削減に関するパネルディスカッション

10月28日(金) 16:00～17:00

レジ袋をはじめとする容器包装材の削減の取組について、学識経験者や事業者、大学生などによりパネルディスカッション形式で議論。

企画：京都市レジ袋有料化推進懇談会

パネリスト	同志社大学経済学部教授 京都市レジ袋有料化推進懇談会 座長	群島 孝
	元イオンリテール株式会社 常務取締役 環境・社会貢献担当	上山 静一
	NPO法人スウィング 施設長	木ノ戸 昌幸
	京都R・京都大学経済学部	永松 剛



ミニステージ

笹岡 隆甫さんによる「いけばなパフォーマンス」 10月29日(土) 10:30～11:00

環境保全を訴える若手文化人のグループ「DO YOU KYOTO?ネットワーク」(平成21年9月より「京都市DO YOU KYOTO?大使」)でも御活躍の笹岡 隆甫さんによるいけばなの披露。作品は、会場で2日間展示。



わが町のエコ自慢

10月29日(土) 11:20～11:50 / 10月30日(日) 12:00～12:30

地域における環境拠点であるエコまちステーション職員による地域の取組の紹介。



10月29日(土)

北エコまちステーション
山科エコまちステーション
右京エコまちステーション
伏見エコまちステーション
深草エコまちステーション

10月30日(日)

下京エコまちステーション
西京エコまちステーション
洛西エコまちステーション
醍醐エコまちステーション

KBS京都ラジオ公開生放送

10月29日(土) 12:00～13:30

「第6回3R推進全国大会presents 3Rもお世話になります」

出展者やワークショップ参加者へのインタビュー、小学生による環境取組の発表などを生中継で放送。



3.京都市環境展

ミニステージ

廃品演奏家山口ともステージ

10月29日(土) 13:30 ~ 14:30

廃材・廃品を使って音楽を奏でる耳にも環境にも優しいステージ。



ぱぱとはるのサイエンスショー

10月29日(土) 14:30 ~ 15:00

娘さんとの親子漫オコンビで、ワッハ上方演芸コンクールで受賞するなど実力のコンビ「ぱぱとはる」による楽しくまなべるサイエンスショー。



ふろしきワークショップ

10月30日(日) 10:30 ~ 11:30

ふろしき研究会によるふろしきの使い方を伝えるワークショップ。



ミニステージ

ハイムーン先生による環境マンガワークショップ 10月30日(日) 13:00～14:30

環境マンガ家であり、ごみ博士のハイムーン先生(高月先生)の話を聞き、子どもたちで環境に関するマンガを描き学ぶワークショップ。企画・運営:京都市ごみ減量推進会議、日本環境保護国際交流会(J.E.E.)



ダブルダッチ(縄跳びパフォーマンス)

10月30日(日) 15:30～16:00

数々の大会で優勝・入賞を果たしたダブルダッチチームによる演技と来場者による体験を実施。



3.京都市環境展

エコ体験コーナー

紙すき体験教室

10月29日(土) 10:30 ~ 12:00

紙パックから手作り絵葉書をつくるワークショップ。

企画・運営:京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会、京都市ごみ減量推進会議



有次さんスプーン教室

10月29日(土) 14:00 ~ 16:00

包丁・手造料理道具「有次」さんから出た銅板端材をつかって、世界に一つだけのスプーンを作る工作教室。

企画・運営:京都市ごみ減量推進会議



素材・端材であそぼうGuRuRe:

10月30日(日) 13:00 ~ 14:30

工場やお店から出る素材や端材を使い、オリジナル作品の作成コーナー。

企画・運営:こどもアート、京都市ごみ減量推進会議



4. 関連イベント

関連イベント 概要

- | | |
|--------|---|
| ■ 名 称 | 環境省中央環境審議会
循環型社会計画部会地域ブロックヒアリング |
| ■ 開催日時 | 平成23年10月28日(金) 14:00 ~ 16:00 |
| ■ 会 場 | 京都市勧業館みやこめっせ 地下1階 大会議室 |
| ■ 主 催 | 環境省 |
| ■ 来場者数 | 約50人 |
| ■ 趣 旨 | 地域における循環型社会の構築に向けた取組の重要性についての理解や関心を高めるとともに、大学、行政、事業者、NPOにおける3Rの推進など地域における循環型社会づくりの先進的な取組事例を発信し、第2次循環型社会形成基本計画に係る進捗状況の点検のため、中央環境審議会循環型社会計画部会を開催した。 |



■ 議 事 等

3R検定について

京都大学環境科学センター助教 浅利 美鈴氏

3R・低炭素社会検定を始めたきっかけや検定のねらい、合格者を対象にしたリーダー育成のためのミーティング及びプログラム実施、今後の課題等についてヒアリング・意見交換が行われた。

地方自治体の取組について

京都市環境政策局循環型社会推進部循環企画課 担当課長 堀 寛明氏

京都市循環型社会推進基本計画の2次計画の概要、バイオディーゼル燃料化事業、家庭からの生ごみ対策、エコまちステーション、小型家電のレアメタルリサイクル事業など、京都市の循環型社会構築に向けた取組についてヒアリング・意見交換が行われた。

NPOの取組について

Ladies Eco Circle プラムロード 代表 中村 吉江氏

地域のイベントにおけるリユース食器の利用、雑紙のコミュニティ回収、子どもたちと共に環境体験学習を行い学校と地域の連携を目指す「エコ・シュール(エコ・スクール)」等、持続可能なコミュニティの構築に向けた3Rによる地域連携の取組についてヒアリング・意見交換が行われた。

事業者の取組について

月桂冠株式会社 技術部品質保証課長 浪瀬 政宏氏

排水汚泥の再資源化、酒造りと循環型農業(酒粕肥料での米栽培)、容器包装の軽量化(エコカップの開発)、バイオエタノールの開発、地域と連携した環境活動、持続可能な社会の実現に向けた環境方針についてヒアリング・意見交換が行われた。

詳細については、環境省のホームページをご覧ください。 <http://www.env.go.jp/council/04recycle/yoshi04.html>

関連イベント 概要

- 名 称 第12回環境フォーラムきょうと
- 開催日時 平成23年10月30日(日)10:00～17:00
- 会 場 京都市勧業館みやこめっせ 地下1階 第1展示場
- 主 催 京都市、社団法人京都府産業廃棄物協会
- 趣 旨 「環境フォーラムきょうと」は、産業廃棄物に対する市民の方々の理解を得ることを目的に、京都市と社団法人京都府産業廃棄物協会が毎年開催しており、今回で12回目となった。パネルや再生品を展示したほか、処理・リサイクルの工程をゲームで理解する「巨大すごろく」、産業廃棄物をキャラクター化した「さんばいキャラクターズカード」の配布などで、多くの家族連れにアピールした。



▲さんばいキャラクターズカード
巨大すごろく



5.資料

5 資料

チラシ(A4両面印刷)



式典プログラム(A3二つ折り、両面印刷)



ポスター(B3片面印刷)



広報ツール(エコ箸)



第6回3R推進全国大会リーフレット(A4三つ折り、両面印刷)





第6回3R推進全国大会実行委員会設置要綱

【名称】

第1条 本会は、第6回3R推進全国大会実行委員会(以下「実行委員会」という。)と称する。

【目的】

第2条 実行委員会は、資源循環型社会の形成に向けて、より広範な3R活動推進を図ることを目的に開催する第6回3R推進全国大会(式典)と「第6回3R推進全国大会京都市環境展」をはじめとする他のイベント(以下「併催イベント」という。)の一体的な運営及びその調整等を図るために組織する。

【業務】

第3条 実行委員会は、次の業務を所掌する。

- (1) 第6回3R推進全国大会(式典)の開催に関すること。
- (2) 併催イベントの開催に関すること。
- (3) 前2号の一体的な運営・調整に関すること。
- (4) 実行委員会の予算・決算に関すること。
- (5) 第1号及び第2号に係るその他関係機関、団体等との連絡調整に関すること。

【組織】

第4条 実行委員会の委員は、別表に掲げる者をもって構成する。

【役員】

第5条 実行委員会に、次の役員を置く。

- (1) 委員長 1名
- (2) 副委員長 1名
- (3) 監事 1名

2 委員長は、京都市環境政策局長をもって充てる。

3 副委員長は、京都市環境政策局循環型社会推進部長をもって充てる。

4 監事は、京都市環境政策局環境企画部環境総務課長をもって充てる。

【役員の責務】

第6条 委員長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

3 監事は、実行委員会の会計事務を監査する。

【会議】

第7条 実行委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

【幹事会】

第8条 会務の円滑な運営を図るため、実行委員会に幹事会を置く。

2 幹事会については、委員長が別に定める。

【事務局】

第9条 実行委員会の事務を処理するため、京都市環境政策局循環型社会推進部循環企画課内に事務局を置く。

【経費】

第10条 実行委員会の経費は、負担金、その他の収入をもって充てる。

2 前項の資金は、委員長を名義人とする銀行口座にて管理する。

【予算及び決算】

第11条 実行委員会の予算は、実行委員会の承認を経てこれを定め、決算は、監事の監査を経て実行委員会の承認を得るものとする。

【解散】

第12条 実行委員会は、大会が終了し、決算の承認を得られたときに解散する。

【その他】

第13条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則

この要綱は、平成23年6月3日から施行する。

別表(第4条関係)

第6回3R推進全国大会実行委員会 委員名簿

委員長	京都市環境政策局長	坪内 俊明
副委員長	京都市環境政策局循環型社会推進部長	長谷川 一樹
委員	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課長	坂川 勉
"	環境省近畿地方環境事務所長	徳丸 久衛
"	3R活動推進フォーラム専任理事	八木 美雄
"	京都商工会議所産業振興部長	稲垣 繁博
"	社団法人京都府産業廃棄物協会会長	文 盛厚
"	京都環境事業協同組合理事長	新川 耕市
"	日本チェーンストア協会会長	清水 信次
"	京都市地域女性連合会長	西脇 悦子
"	京都市ごみ減量推進会議会長	高月 紘
"	第9回京都学生祭典実行委員会実行委員長	辰巳 綸紗
監事	京都市環境政策局環境企画部環境総務課長	村中 俊文

第6回3R推進全国大会幹事会設置要綱

【設置】

第1条 第6回3R推進全国大会実行委員会(以下「実行委員会」という。設置要綱第8条の規定に基づき、第6回3R推進全国大会実行委員会幹事会(以下「幹事会」という。)を設置する。

【業務】

第2条 幹事会は、次の業務を所掌する。

- (1) 式典・併催イベントの実務的な企画立案に関すること。
- (2) 式典・併催イベント、関連イベントの広報・PRに関すること。
- (3) 式典・併催イベント、関連イベントの実施に関し、関係機関・団体間の連絡調整に関すること。
- (4) 委託業者の選定に関すること。
- (5) その他業務の円滑な推進に関すること。

【組織】

第3条 幹事会は、次に掲げる機関又は団体から推薦のあった者をもって構成する。

- (1) 京都市
- (2) 環境省
- (3) 環境省近畿地方環境事務所
- (4) 3R活動推進フォーラム
- (5) 京都商工会議所
- (6) 社団法人京都府産業廃棄物協会
- (7) 京都環境事業協同組合
- (8) 日本チェーンストア協会
- (9) 京都市地域女性連合会
- (10) 京都市ごみ減量推進会議
- (11) 第9回京都学生祭典実行委員会
- (12) その他関連イベントの実施機関

【幹事長】

第4条 幹事会に幹事長を置く。

2 幹事長は、京都市環境政策局循環型社会推進部循環企画課長をもって充てる。

【招集及び会議】

第5条 幹事会は、必要に応じて実行委員会委員長が招集する。

2 幹事長は、会議の議長となる。

【事務局】

第6条 幹事会の庶務は、実行委員会事務局において処理する。

【解散】

第7条 幹事会は、その任務を達成したときに解散する。

【その他】

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、実行委員会委員長の承認を得て幹事長が別に定める。

附則

この要綱は、平成23年6月3日から施行する。

別表(第3条関係)

第6回3R推進全国大会実行委員会 第4回幹事会 幹事名簿

幹事長	京都市環境政策局循環型社会推進部循環企画課長	牧村 雅史
幹 事	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課循環型社会推進室長補佐	鳥毛 暢茂
"	環境省近畿地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課長	林 里香
"	3R活動推進フォーラム事務局長	藤本 正
"	京都商工会議所まちづくり推進担当課長	外池 順一
"	社団法人京都府産業廃棄物協会専務理事	岩田 隆
"	京都環境事業協同組合事務長	近藤 恵三
"	日本チェーンストア協会関西支部参与	宮川 精慈
"	京都市地域女性連合会副会長	中川 恵美子
"	京都市ごみ減量推進会議会長代行	山内 寛
"	第9回京都学生祭典実行委員会地域事業部部長	橋本 愛子

第6回3R推進全国大会の開催に関する取組

日 時	項 目	内 容
平成23年6月3日	第1回実行委員会	・実行委員会及び幹事会の設置要綱決定 ・大会事業計画案、収支予算書案、実施スケジュール案、委託業者の選定方法案の協議
平成23年6月29日	第1回幹事会	・委託業者を株式会社島津アドコムに決定
平成23年8月23日	第2回幹事会	・大会実施概要の協議
平成23年9月27日	第3回幹事会	・大会実施概要の協議
平成23年10月12日	第2回実行委員会	・大会実施概要の協議 ・収支決算見込書、大会実施状況報告書案の協議
平成23年10月28日～30日	第6回3R推進全国大会	
平成23年12月8日	第4回幹事会	・収支決算見込書、大会実施状況報告書案の協議
平成23年12月21日	第3回実行委員会	・収支決算見込書、大会実施状況報告書案の協議



第6回

3R推進全国大会 in Kyoto

